繪本通俗三國志

繪本通俗三國志

絵本通俗三國志目錄

○巻之七
曹操兵を起して張繡を伐つ
袁術七路徐州を攻む
曹操兵を督して袁術を伐つ
賂貨を決して買詡兵を談ず

○巻之八
夏侯惇矢を拔て眼を啖ふ
呂布下邳城に敗走す
白門樓曹操呂布を斬る
曹操許田よ鹿を射る
董承密わ衣帶の詔を受く

○巻之九
曹梅酒を煮て英雄を論ず
關羽襲ふて車冑を斬る
曹操兵を分て袁紹を防ぐ
關羽張飛劉岱王忠を擒にす
禰衡赤裸ゐて曹操を罵る

絵本通俗三國志目錄終

通俗三國志卷之七

○曹操兵を起して張繡を伐つ

建安元年の冬劉玄德小沛の城を呂布に追出され僅五千餘騎にて許昌の都へ逃上り曹操が方へ孫乾を使として賴むべき由を云遣いさる曹操少しも異儀に及いず玄德い我弟なり疎ゑすべき樣あしとて人を出して迎へければ玄德次の日城中に到り再拜して見へらる曹操自ら扶け起して上座を讓りければ玄德具さに呂布が惡虐を告玉ふ曹操申けるい呂布い元來義を知ぬ國賊なり時を待て退治すべしと酒宴を設けて持成樣に及んで別れて相府に回りければ荀彧密かゑ來りて低語なるい玄德い世の英雄ゑて怖しき者なり早く除き玉いずんい後に大ひなる患を成ん曹操如何思ひけん默然として居さりしかば荀彧退き出にゝり暫くありて郭嘉外より來りなきば曹操問て申けるい荀彧我に玄德を殺せと勸む汝が心如何思へる郭嘉申けるい荀彧が勸る事尤も其理なきに非ずされど君今仁義の兵を起して天下の爲に害を除き信義を以て賢人を招ば百姓と治め玉ふべに却つて玄德を殺さば必ず妬賢忌才の謗を取玉いん殊に玄德い英雄の譽天下ゑ隱れなき者なる上今困窮して名を賴む若此を殺さば智謀の將士も皆疑ひを含んで逃れ去ん然る時い君誰と共に天下を定め玉いんや夫除一人之患以阻四海之望安危の機よく〳〵察し玉へ曹操喜んで申しけるい我も左こそ思ひつれ汝が計事能も我心に合へりとて次の日天子に奏聞を歷て玄德を豫州の牧ゑ封ず程昱此由を聞て急ぎ曹操を諫めて申しけるい玄德の爲人を某よく見いゑ才德世に超て甚だ民の心を得たり了に人の下に居べからず如ず早く除き玉へ曹操申けるい汝が云處然らず方に今英雄を招き用るの時なるに一人と殺して天下の心を失ふべきか郭嘉が所存も我ゑ同じと云ければ程昱實もと嘆服し君臣に王覇の德あり某等が及ぶ處ゑ非すといふて退出せり曹操其後精兵三千餘騎兵糧一萬斛を玄德に與へて豫州の太守とし重ねて日を定め共ゑ兵

を起して呂布を討んと約をあす時に宛城より早馬來り舊の董卓が大將張繡長安に在て勢を集め荆州に打入て穰城を攻取んとせしが流矢に中りて命を失ひぬ其兄の子張繡といふ者敗亡の卒を招き賈詡といふ大將が勸に依て荆州の太守劉表と一味し宛城に棚籠て都へ攻上らんと企い討手若延引に及バヽ勇々敷大事成べしと告けれバ曹操驚いて先張繡を平くべしと議しけるども呂布が玄德を攻て盧に乘て都を襲ハん事を怖れ心未だ決せざるを荀彧申るハ此ハ極めて易き事にてハ呂布ハ勇よして計畧あき者なれバ慾に迷ひて利をみてハ前後の思案に及ハず使と遣して官位を加へ恩賞を與へ玉ハヽ忠喜んで安からん然る時ハ玄德と和睦をゐして遠き慮ハいハヽじ曹操即時に奉車都尉王則を勅使として徐州へ遣し此間に張繡を退治せんとて自ら十五萬の勢を起し夏侯惇を先陣とし三手に分れて宛城へ發向す時に建安二年五月先陣已に清水の邊に着て陣屋を造りけれバ張繡之を聞て以ての外よ驚き如何せんと議るに賈詡申けるハ曹操今勢ひ盛んにして中々敵そる事叶ふまじ如じ早く降參して軍民の苦みに罹事を免ぢし先玉へ張繡如何と心危ふみながら職て勝事を得しと思ひけれバ賈詡を使として降參をぞ乞せける曹操對面して快よく降參と許し賈詡が應對水の流るゝが如くあるを見て尋常の者ならずと思ひ平に我ゐ仕へよといふに賈詡申けるハ某前に李傕が手に屬して罪を天下に得たり今又張繡に仕へて二心あき者と賴れたれバ故なくして弄るゐ忍びずとて拜謝して城中に回り次の日張繡に從つて共に來り見へける曹操限りあく喜び大軍を城外ゐ留め置自ら小勢を引て城内に入數日逗留ーけれバ張繡酒宴を設けて樣々に持成或時曹操酒に醉て臥るか傍らの人に向つて此邊よ妓女ハ無かと問に姪の曹安民衣食の役にて前に候ひけるが苔て申けるハ昨日の暮程に密かに一人の美女を見て如何ある者ぞと尋ねハへバ張繡が父の張濟が妻ゐりと申ハひき顔色殊に麗しふして實に天の生る質にてハと云けれバ曹操夫具して參れと云ゐ曹安民混盔五十人を卒して須臾の間に伴ひ來る曹操之をみるに傾國の色誠に云ばかりあく艶姿ゐりしかバ汝ハ如何ある姓ぞと問ゐ張濟が妻にて鄧氏ゐりと苔ふ曹操が曰く汝我を知たるか答て曰く久しく丞相の威名を聞て今幸ひに見ゆる事を得たり曹操申るハ張繡が罪甚だ大ありと雖も我汝を思ふ故に其降參と許せり然らずハ一類を滅すべし女房拜謝して申けるハ實ゐ再生の恩を感そる事深し曹操打笑つて申けるハ今汝よ逢ハ不思議の幸ひあり今宵願くバ枕席を共にし都に回りて後ハ我本妻とすべしとて其夜ハ帳中に枕を並べ夜明て女房申けるハ此儘にて久しく城中に居玉ハヽ張繡疑ひを起して人の怪しみ申を事ハハん曹操實もとて共に城と出て本陣に回り人の疑ひを避ん爲に大將典韋を召て申けるハ汝精兵二百人を擇んで中軍の帳外ゐ宿直し我呼よ非ずんバ一人をも内へ入しむる事あかれ若雖にても漫に入者あらハ即時に首を刎よとて日夜外に出ず彼女房

と酒を飲樂みを成て都の事をも忘れ居けれバ軍中の諸士内外通せず皆退屈してゞ居たりける張繡此由を聞て怒つて申けるハ我本より曹操ハ仁義と心ゐ掛て道を行ふ人ゐりと聞しが今浩る行ひを爲て我を辱しむ如何せんとて諸大將と議するゐ賈詡申けるハ必ず此事泄すべからず萬一外ゐ沙汰ある時ハ我等みゐ三族を滅されん明日曹操が外に出て事を議する時君よく箇樣〳〵ゐ計事を成玉へと低語けれハ張繡喜んで相待に案の如く次の日曹操本陣の帳上ゐ出軍中の事を議す張繡進み出て申けるハ某ゐ從て丞相ゐ降りたる兵者共此頃ぬけ〳〵ゐ落去もの多し願くバ某の陣を本陣の傍らに移して落去者を制せん曹操然るべしと許しけれバ張繡密かに喜び陣屋を四ヶ所ゐ造り曹操が中軍ゐ近付計事を相議するゐ典韋といふ大力の剛の者重さ八十斤ゐ作りたる鉄の戟と左右の手に提けいつゐ曹操が寢房の前に在と聞て輕々しく進み難しとて案じ煩ふ處ゐ齒さ大將ゐ胡車兒といふ者ゐり力五百斤を負日々七百里を走る進み出て申々るハ典韋が事ハ某ゐ任せらるべし期に臨んで酒宴を設けて招き寄酒を強て大ひに醉て還る時某密かに雜兵ゐ打混り從ひ行て先其戟を盜取ん然る時ハ此人物の用に立べからず張繡限りなく喜び武具を調へ手配を定めて用意一齊ゐ備らしかバ賈詡に命じて典韋を招がせ酒を勸めて樣々ゐ持成けるに晩方にハ前後も知ず醉伏たり已に回らんとて出けれバ兼ての計事を乖へず胡車兒扮れて伴ひ行けり曹操ハ此夜も彼女房と酒宴して居けるが俄に人馬の音物騒しく成けれバ人を出して何事ぞと問に張繡が陣の夜巡ありと答ふ此に依て心を安んじ居たるゐ漸々二更の頃に至りて一人走り來り陣やの後上を下へと返して韋を稠だる車に火燒出たりと申す曹操猶も驚かず兵者共が油斷して手誤ちし出したるあらんと云處に四角八方に火起りて陣中騒さ閙く曹操コハ如何とて走り出て典韋を呼に醉倒れて帳外にあり去程に遠近鼓を打鑼を鳴して喊の聲地を動しけ

ゞ典韋夢打驚き跳り起て傍らを尋ぬけゞども戟ハ二ツ共ゐ見す早敵の大勢轅門の邊まで攻來りけれバ急ゐ雜兵の腰刀を拔てよろめき出るに寄手の勢皆長き鎗を持て四方より突こと野澤の蘆に異ゐらず典韋ハ身に甲をも被ざれハ遍身に創を被りゐながら敵二十餘人と斬て落して騎馬の勢を追出しけれバ又歩立の敵軍入替りて攻たりける典韋猶踏止りて喚き叫んで戰ひゐるゐ疲み切たる刀も折けれバ大手を廣げて近づく敵二人を左右に持上散々に撃合たるに矢場ゐ死する者八九人寄手之を怕れて門外へ颯と引たゝ遠矢ゐ射すくめける陣々盡く火掛りて士卒我先ゐと落行本陣を救ハんとする者ゐかりしかども典韋ゐハ門を守りて退かず其後敵の勢皆後より乱れ入典韋が立すくミたるを鎗を指延て群り擣に喚く聲地と震ふて流るゝ血泉の如く了に倒れて死けれども半時バかりハ近付者ゐゐかりける曹操此間に馬を尋ねて打乘後の門より走りけるに曹安民只一人歩跣にて從ふたり未だ清河の邊りにも到らざるに曹操右の臂をしたゝかゐ射られ乘たる馬も三條まで射付られて漸く河を渡らんとする所ゐ敵の勢急に起かけ曹安民を取囲んで寸々に斬る曹操震ひ怕れ河を打渡つて向の岸に蒐上れバ矢一ッ來つて馬の眼に中る此ゐ依て小篠の上に立騎替を待程ゐ敵の勢生取んと馳集る嫡子曹昂ハ遙に落延たりけるが父の危さを見て馬を求めて馳來り曹操を扶けのせて趕蒐る敵を支へけるが了ゐ乱れ矢ゐ射死されたりされバ討れたる屍路に横たハりて軍果て後ゐ清河の流血ゐゐりて紅楓の陰を行水の夕陽を涵せるが如くゐり曹操初め夏侯惇ゐ命じて青州の勢を司どらせけるが軍令緊しからざる故に其勢四方ゐ散て人民を劫かしける于禁其猥藉を靜めん爲ゐ惡人の張本を斬て民を安んじけれバ青州の勢皆怨を含み曹操に見へて申けるハ于禁俄ゐ敵と成て却つて我等を殺さんとす此故に遑々遁れて來りしとて皆涙を流しけれバ曹操大ひゐ驚き料ざりき于禁が心易りせんとハ我如何ーて都ゐ回らんと嘆く處

に諸大將此彼より馳來り夏侯惇申けるゝ某打向て汝禁が賣否を聞來らんとて手勢を引て打出る汝禁ゝ浩る事ありとゝ知ず追來る敵を支へんとて敗軍の士卒を集め曹操が來るを見て彌々兵を激し濠を堀せ柵を結せけれゞ誠人來りて申けるゝ適よ狼藉を成て打散されたる青州の者ども怨みを含んで讒言し將軍心變りし玉ひて却つて味方と打玉ふと申を此ゝ依て曹丕相疑つて來り玉ふ先此陣を棄て二心あさ由を明し玉へ汝禁申けるゝ今敵の勢勝に乘て追來る若陣屋を撫へて此處にて一支へ支へずんゞ御方何國にか足を留ん我二心あさ由を申すゝ小事なり敵を支ふるゝ大事なりとて陣屋を遶り出しける時衆の如く張繡が兵二手に分れて追來汝禁待受たる事なれゞ自ら眞先に進んで士卒を勵し短兵急ゝ揉たりしがゞ曹操相兢りに兢りて散々ゝ打破る張繡殘り少ゝに討なされて爲べき樣あかりけるゞ荆州に走りて劉表を賴む曹操喜んで本陣に回りけれゞ汝禁來りて青州の兵共の狼藉したる事と語る曹操申々るゝ狼藉を靜めたるゝさもあらん汝我下知もあさに陣屋を作たるゝ何故ぞ汝禁事の樣を有の儘ゝ語るゝ曹操嘆じて申けるゝ淯水の敗軍我大ひゝ狼狽せり汝亂れたる軍中に在て能兵を整へ堅く守りて動ず追蒐る敵を支へたる事古の名將も此上にゝ出べからずとて金の器一對を恩賞に賜ひ壽亭侯にぞ封じ々る次ゝ夏侯惇を召て法令の正がらざるを責師を收めて都に回りけるが諸人ゝ語りゝ此回の敗軍ゝ嫡子曹昂と姪の曹安民とを討れたれども我さまで哭く事ゝし只哀しきゝ典韋ありとて頻りに涙を流しけれゞ聞人皆丞相の大將を愛し玉ふこと實に骨肉ゝ超たり一命を此君に捧げて死ん事露ゞかりも惜からずとぞ申合ける此も曹操が奸計とぞ聞へし此時奉車都尉王則ゝ勅使として徐州ゝ下向し呂布に對面して詔をのべ平東將軍に封し玉ふとて印綬ゝ渡しけれゞ呂布拜謝して喜ぶ事限りゝし王則又曹操が書簡を出しけれゞ呂布披きて讀ゝ其文ゝ曰く

國家好金ゝし孤自家藏の金を取て以て印を鑄る國家好紫綬ゝし自ら帶る所の紫綬を取て以て寸心を表ゝ望むらくゞ將軍劉備と合同し共ゝ袁術を滅して大ひゝ忠誠を著せ書言と盡さず惟將軍照鑑せよ

呂布見了りて我と劉玄德とゝ元より深き怨をゝし何ぞ和睦せざるべきといふ處ゝ忽ち淮南の袁術より使來れりと申す呂布笑つて如何ある使ぞと問ゝ袁術大王近き內に皇帝の位に即んとす此に因て其子ゝ東宮に立急ぎ呂將軍の息女を送りて東宮の夫人に備へ玉ふべしとの使なりと答ふ呂布之を聞て大ひに怒り反賊何とて此の如くゝるぞとて即時に使の頸を刎前に留めて獄に下したる媒の韓胤を引出して頭枷をいれ陳登ゝ表を持せて之を送りて都に上らしむ曹操對面して呂布が表文を看るに其詞ゝ曰く

臣呂布董卓を誅してより又喪亂ゝ罹跡と山東に寄て本末を邀んと欲す曹操が忠孝にして禍を許都に奉づる事と臣前ゝゝ操と兵を交ふ今操陛下ゝ保轉す臣外將として兵自ら從ふゝり嫌疑有ん事を恐れ是を以て罪を徐州ゝ待進退未だ敢て自ら專らにせず近頃天寵曲て恩命を頻つ事を愧慨交々集る倘征討ゝらゞ願くゞ努力を效さん萬死辭せず謹表して以聞す

曹操甚だ喜び呂布此の如くゝる上ゝ我何をか患ひんとて先韓胤を市に出して首を斬しむ陳登申けるゝ呂布豺狼の心ゝりて勇にして計事ゝく智淺くして去就ゝ輕し君密かに圖りて除き玉へ曹操申けるゝ我よく呂布が人と爲を知れり狼子の野心を揷んで久しくゝ養ひ難し汝父子ゝ非ずんゞ此事を謀得ず常ゝ其旨を心得よとて乃ち陳登を廣陵の太守とし父陳珪ゝ中二千石として回らしむ陳登拜謝して打出けれゞ曹操自ら送り其手を執て申けるゝ東國の事偏く汝に任せ陳登答へて丞相兵を起し玉へゝ某必ず內應すべしと云て相別れ直ちに徐州に回りて曹操が父子ゝ官爵を贈りたる由を語る呂布怒つて申けるゝ汝使として都に上り何卒我爲ゝ徐州の牧を求めずしく放さゝに

己が富貴を受く前に汝が父我を勸めて袁術と交りを絶せて却て曹操に服せし先たるに汝等我を賣て身の富貴を取んなりとて劍を拔て斬んとす陳登大ひに笑つて申しけるに將軍何ぞ明あらざるぞ呂布が曰く如何故理あらば命を扶けん陳登申ける〻某都より曾操に見へ呂布に譬へば虎の如し當に肉に飽しむべし飽ざる時に必ず人を噬んと申せしに曹操打笑て頭を掉て否々我呂布を養ふに鷹を養ふが如し狐や兎の世に在間に先飽しむべからず餓る時に人に用ひられ飽時に飛去んと云り某又狐兎とい誰を申すぞと問しに曹操笑て呉の孫策冀州の袁紹荆州の劉表益州の劉璋漢中の張魯是等を世の狐兎とす鷹に非ざれば取事能はじとよそ申してひと云々を呂布之に心解て限あく打笑ひ曹操よく我を知りと云て少しも疑はず時に早馬來り袁術淮南の大軍を起して此處へ寄ると告ければ以ての外お周章し諸大將を集めて計事を議せ

○袁術七路徐州を攻む

袁術淮南の郡縣を横領して地廣く糧多し是皆人民を掠め刼かして邪に富貴と得たる者あり殊更孫策が預り置たる帝王傳國の玉璽ありければ皇帝の位に即んとて九重の宮室を造り車駕冠晩等まで一齊に備りければ手下の大將と蠡く聚めて昔漢の高祖は泗上の亭の長たりと聞しが四百年の帝業を創めて今日まで傳へたり然れども天數已お盡て劉氏微弱四海鼎の如くお沸我家は四代まで三公に昇りて百姓の歸する處誰か心を寄ざらん我應天順命て九五の位に登んと欲す汝諸々の臣よく忠孝の節を激し朕を輔けて政事を行へと云ければ主簿閻象といふ者諫めて申けるは昔周の后稷より文王お及ぶまで功を累ね德を積玉ひしかども天下を三分して其二を有ち猶殷の紂王に事へり今君異に累代克昌んなりと申せども周の盛んなるに若ず漢室衰へたりと雖も未だ殷の紂が悪逆に至らず此事決して宜からず袁術申けるは我袁姓にして陳の國より出たり陳は乃ち大舜の後土を以て火を受く其運に應せり我字は公路讖の文に漢に代りて塗に當る事高しと云り況んや傳國の玉璽あり若帝位に即ずんば却つて天道に背かん吾必已お決せり再び諫る者あらば必ず首を刎んと て號を仲氏と建て臺省官府を造り龍鳳の輦に駕て南北の郊お祭り馮氏の女を皇后として後宮美人數百人衣服皆綿繡を重ね器用金玉を瑩く諸人賀を伸て已に帝業成就せりとて嫡子を東宮とし呂布が女を娶りて共に好みを結ばんとて屬々使を還すに呂布却つて曹操に一味して媒の韓胤を市に斬て其外の使を皆首を刎たりと聞て大ひお怒り二十萬の勢を起して七ッに配つ第一大將軍張勳第二橋蕤第三陳紀第四雷薄第五陳劉第六韓暹第七楊奉あり日を擇んで打立ければ兗州の刺史金尙を太尉に任じて七路の兵粮を奉行せさせんと云に金尙如何思ひけん堅く從はざりしかば袁術怒つて金尙を殺し大將紀靈を七路の都救應使と定め自ら李豐梁剛樂就等と精兵三萬餘騎を率して後陣お殿さける袁術が大軍徐州へ向ふと聞へければ呂布

膳を冷し其樣を看て參れとて早馬を遣しけるゐ馳て馳回りて申けるゝ袁術自ら後陣ゐ備へて先手の勢を七路ゐ分ッ張勵が一軍ゝ直ちに徐州の大路に蒐り橋粧が一軍ゝ小沛に蒐り陳紀が一軍ゝ沂都に蒐り留滯が一軍ゝ琊琊に蒐り陳蘭が一軍ゝ碣石に蒐り韓暹が一軍ゝ下邳ゑ蒐り揚奉が一軍ゝ峻山にかゝり一日ゑ曽五十里の路を打て民屋を虜掠し其勢ひ恰も卵を壓が如くありと告けれゞ呂布ヨハ如何と怕れ懼き急に陳珪陳登を召て相議するに陳宮傍らゑ在て申けるゝ今日の禍ひゝ陳珪父子が爲わざゝり彼二人元より曹操に内通の心ありて言を巧ゑし色を令し朝廷に媚て君と費己れが身に富貴を求めて禍ひを勝軍に移す早く二人の首を斬て袁術が方へ送り玉ゝゃ大軍自ら退かん呂布實も汝が申す如く我も常に彼父子を怪ひ其謀よと下知すれゞ陳登笑つて申しけるゝ將軍何とて箇程に懦弱なるど某今袁術が勢を見る事朽木と碎くが如く呂布申けるゝ汝此敵を退くる計ありや若計あらゞ罪を免さん陳珪問て曰く袁術が勢何程と聞へゝど呂布が曰く七手に分れて二十餘萬あり陳珪が曰く此國の勢ゝ何程ゝど呂布が曰く五六萬に過ず陳珪申しけるゝ袁術が二十萬ゑ御方の五六萬より程の對手なり歟ゝ遠路ゐ疲れ御方ゝ以逸待ゝ勞四方路を分て要害ゐ拒ぐべし呂布冷笑て曰く汝頸を斬れんが痛さに僞りて暫く我を戮き他國へ逃んゝ爲に右申せか陳珪が申けるゝ某が妻子一族皆將軍の掌にあり某之を棄て何國への逃行ん今某が計を用ひ玉ゝゃ徐州必ず安かるべし呂布が曰く願くゞ言事を聞ん陳珪が曰く袁術今揚奉韓暹を用ひて翼とも彼皆一處ゑ在と雖も烏の聚りたるが如くにして心更に相親まず若正兵を以て難處に防ぎ奇兵を出しく竊ゐ伐ゞ千に一も勝ずと云事あらじ又別に某が計事あり徐州を安くゝるのみあらず袁術をも擒にせん呂布喜んで問て曰く願くゞ汝が計事に從ふべし陳珪申しけるゝ揚奉韓暹が袁術に從ふゝ風凰の鶏に從ふが如し勢ひ必ず久しからじ殊ゑ袁術が人を用るゝ薪を積が如し今此二人を用ふと雖も此二人ゝ元來漢朝の臣長安より還御の時路次の軍に大ひある功を立たる者なれども曹操が勢ひを憚りて必あらず袁術に身を寄る者あり此故に袁術常ゐ甚だ輕んず若密に書簡を贈りて揚奉韓暹が心と結び又豫州へ人を遣し劉玄德に救ひを求めゞ袁術を生捕事一戰の上に有ん呂布喜んで申けるゝ汝父子の内に自ら行て揚奉韓暹等を招ぎ諭さんや陳登が曰く某遠かに行ん呂布乃ち書簡を調へて先豫州の劉玄德に救ひを求め陳登に五六騎を授けて揚奉等を諭さしむ陳登下邳の路條より韓暹が陣に行けれゞ韓暹問て曰く汝ゝ呂布が大將今何とて此に來る陳登笑つて申しけるゝ某ゝ漢朝の臣何ぞ呂布が大將たらん將軍前に天子長安より還幸の時忠戰を勵んで危きを救ひ世に稀ある功を立玉へり身ゑ少しの罪あくして眞ゐ有德淸白の大丈夫然るに今袁術が如き逆臣を佐玉ふゝ璧へゞ明珠を捨て泥丸を取が如く良玉を拋つて頑石を抱くに似たり不忠不義の名萬世に至るまで人に瓜彈して疾まれ玉ゝん某密のに將軍の爲に之を耻とす豈一旦の怒りに因て千古の名を失ゝんや且袁術ゝ心ゑ疑ひ多き人あり後必ず將軍を害すべし能々思案し玉へと云けれゞ韓暹申けるゝ我漢に歸せんと思ふ心あきに非ず常に便るきを慢るあり時ゐ陳登懷より呂布が書簡を取出し此を視て早く心を決し玉へと云けれゞ韓暹披き見るに其書に曰く

布聞く二將軍同じく大駕を扶けて萬世の功を立と偶々一時の間言に因て以て身と闕外に失ふ事を致す若能故を革めて新きを鼎め邪と去て正に從ひ同じく黨逆と誅して共に皇朝を佐け以て違大を圖らゞ名竹帛に書せん事ら回書を懇切に希ゝ照察せよ

韓暹見了りて申しけるゝ我意本より此の如しゐ邊先回れ我密かに揚奉と志を合せて袁術を討取べし合戰の最中に火の手を揭るを我等が合圖と知玉へと云けれゞ陳登別れて徐州に還り呂布ゐ右の趣きを語るに呂布限りなく喜び

兵を五手に分て一手は高順を大將として小沛の跡を守せ一手は陳宮を大將として沂都の難處を守らせ一手は張遼威覇を兩大將として郯琊を守らせ一手は宋憲魏續を兩大將として碭石を守らせ一手は呂布自ら大將として大路に陣を取て張勳を支へんとす其勢曾一萬餘騎あり去程に七路の寄手齊しく進んで徐州の境に近付けるが呂布自から徐州大路へ三十里出張したると聞く大將軍張勳怕れて二十里許り引退き呂布は尋常の敵よ非ずよく〳〵諸方の味方と計を協せて一齊に攻んと謀す呂布は敵の戰はずして退きたるを見て怪み自ら山に上りて夜中に敵陣を窺へば俄に火の手を擧て敵の陣上を下へと騷動すスハヤ是こそ楊奉韓暹が兼ての合圖あれ此方よりも攻合せよとて自ら兵を驅て喚いて蒐る張勳は思ひも寄ず楊奉韓暹に火を付て後より攻られ如何せんと騷き閲く處に呂布前より打て入ければ彌亂れ立て馬物の具をも打捨散々に走り迷ふて討るゝ者數を知ず呂布勝に乘て殺して夜の明方に至りければ紀靈救ひの勢を引て馳來るよ楊奉韓暹又傍らより打て蒐りしかば救ひの勢も共に亂れて一支もせず我先にと逃走る呂布追討に進む處に山際より人馬夥しく蒐出二手に颯と分て中軍は龍鳳日月の旗を指わげ四斗五方の幟を立白旄黃鉞金瓜銀斧黃羅の傘と張て其下に袁術金の鎧を披て手に刀を提げ馬を一陣に進めて呂布匹夫早く降れと罵りければ呂布大ひに怒り戟を舞して斬て懸ると大將李豐鎗を撚つて迎へ戰ひ三合あらざるに右の臂を斬落され鎗を棄て走りけり此を見て樂紀樂就二人急に出て呂布と戰ひ未だ勝負を分たざるは袁術兵を卒して自ら進ひ時は楊奉韓暹又後より攻入ければ袁術が勢俄は亂れて散々よ敗北す呂布いよ〳〵氣に乘て息をも繼せず追立〳〵攻ければ袁術が勢殘り少なに打あされ二里ばかり逃延たるに山の上より一彪の軍馬蒐出て去べき路を攔れり眞先なる大將は劉玄德の弟に關羽字は雲長八十二斤の青龍刀を提げ大音あげて申けるは我此よ來りて呂布を救ふ逆賊首を延て刀を受よとて五百餘騎喚き叫んで蒐たりしかば袁術は魂も身に添ず已よ馬より落んとしけるを紀靈只一騎返し合せて防き戰ひ遑々助けて淮南へぞ回りける呂布思ひの儘に打勝て諸方の敵を趕まくり彌々陳珪父子を重んじ關羽并びに楊奉韓暹を招いで麗びの酒宴をあし劉玄德の恩を謝して關羽と豫州へ回し楊奉を郯琊の牧とし韓暹を沂都の牧とし次の日密に陳珪を召て申けるは我楊奉韓暹が内を一人此處に留めんと欲す汝が意如何思へる陳珪申しけるは此に留先て益なし二人行て山東を守らす一年を過ずして山東の城郭自ら將軍に屬せん呂布實もとて次の日諸軍に恩賞を與へて手分をあし韓暹を沂都に遣し楊奉を郯琊よ遣はす陳登此由を聞て密かに父に問けるは某が意は楊奉韓暹を二人共に此處に住め置て重ねて呂布を殺す時の翼にせんと存せしに何故に二人あがら遠く去しめ玉ひしぞ陳珪申しけるは若此者共を留先置時は必ず呂布に諂ひ從はん然らば虎ふ翼と添るあり我此故に遠く去しむと答へられば陳登父の高見に服す袁術は若干の軍馬を失つて這々淮南へ逃回り何とぞして此恥を雪んとて吳の國へ使を馳て孫策に軍兵を借んとす此時孫策は盡く江東の地を攻靡て文武の大將を用ひ威風遠近ふ震ふ浩る處よ淮南の使來り袁術皇帝近頃呂布ふ戰ひ負て孫將軍よ援けの勢を借て此恨を雪んとす早く力を助けて往日の交を忘るゝ事あかれと云ければ孫策以ての外に怒り汝妄りよ帝位を僭して朝廷に背き剰へ我預け置たる傳國の玉璽をも返さず是如何ある所行ぞ我常ふ兵を起して打滅し罪を正して天下に謝せんと欲す何ぞ力を助くるの理あらん早く頸を洗つて刀の臨むを待と書て使を逐立て回しける使急ぎ淮南よ回りて右の趣きを語り孫策が書簡を渡しければ袁術披き見て牙を嚙て怒をなし孺子妄りふ朕を辱しむ先吳を攻破りて此憤りを散せんと聞きなるを長史楊大將といふ者樣々に諫めて止けり

○曹操兵を會して袁術を伐つ

孫策ハ淮南の使を逐回し袁術必ず怒つて攻來るべし兵を調へて相待とて兵船を江邊に列弧て用心する處ゑ都より曹操が使來り天子の詔を傳へて會稽の太守に封し兵を起して淮南の袁術を伐べしと下知しければ孫策喜んで詔を承け順て淮南を攻んとす時に長吏張昭申けるハ袁術近頃呂布と戰ひ負て回りたれども元來兵強く糧多けれバ敢て屑ともせず必ず輕々しく攻掛りて國の禍ひを惹出し玉ふゑ如ず曹操ゑ自ら淮南を攻させて我國の勢ハ後より打向つて力を助けんと云玉ハゝ曹操必ず兵を起し淮南に向ハん是兩方より挾んで攻る時ハ袁術必ず破るべし又ハ萬一我國ゑ禍のある時ハ救ひを曹操に求先んゑの計ありと云ければ孫策限りなく喜び書簡を調へて曹操ゑ送る曹操ハ張繡と戰ひ負て都に回りしより偏へに典韋が討れたるを惜み祠堂を建て祭をゑし其子典滿を中郎ゑ任じて恤み用ひけるに呉の國より孫策が使者來り多く禮物を献りて書簡を送る曹操披き見るに先都の勢を起して淮南を攻玉へ呉の國の勢ハ後より攻蒐らんとの事なりければ早く打向て平ぐべしとて先間者を遣して窺ハしむるゑ袁術近頃兵粮に乏ふして陳留の邊を掠め劫のすとゆすさらバ攻よとて急ゑ麾下の勢を整へ曹仁を都の留守とし兵粮武具を車千輛餘りに稠で其勢都合三十餘萬建安二年秋二月に都を打立先早馬を打て呉の國に報じ徐州と豫州とへ使を馳て共に兵を調へて豫章にて出合んと云遣ハす先陣己ゑ豫章の界ゑ着けれバ玄德兵を引て豫州より來り曹操に對面しく頭を二ッ出さる曹操驚いて何者の頭ぞと問ふ答へて申されけるハ此ハ楊奉韓暹二人が頭ゑり呂布此者を手下ゑ用いて沂都瑯琊を守らしむるに二人猥りゑ惡を逞しふして毎日揚州徐州の邊ゑ出人民を劫かし子女を犯す某堅ら其狼藉を見るゑ忍びず酒宴を設けて二人を招き關羽張飛等に命じて席上ゑて討殺さしむ此ゑ因て手下の勢皆某に降參せり曹操限りなく喜び御邊國の爲に害を除く是大ひなる功なりとて兵を推て徐州の界に到れバ呂布來りて對面す曹操言葉を和げて其心を悅バしめ重ねて都に回りゑバ左將軍に申し薦ん之と云ければ呂布恩を謝して相從ふ乃ち諸軍の手配あるべしとて夏侯惇十禁を先手とし曹操自ら中軍ゑ備へて玄德を右に備へ呂布を左に備ふ袁術此由を聞て以ての外ゑ駭き先五萬の兵を調へ橋蕤を先手の大將として打て出で防がしむ兩方の軍勢忽ち壽春の境ゑて出合橋蕤旌を進め馬を蒐すへ鼠賊何ぞ我國を侵すと罵りければ夏侯惇きゝも肯す鎗を提げて撞て蒐り戰ひ三合あらざるゑ橋蕤を刺殺し勢ひに乘て喚いでかく淮南の先陣五萬餘騎大將を討れてゑじかハ堪ふべき立脚もあく逃崩れければ袁術自ら後陣ゑ支へて引な〳〵と制すれ共耳にも聽いれず落行勢ゑ誘ハれて壽春城に引籠る時に早馬追々來りて申しけるハ呉の孫策己ゑ曹操が下知を受て舟手より此城の西に向ひ呂布徐州の勢を卒して東を攻め劉玄德豫州の勢を調へて南より寄せ曹操ハ自ら三十萬の兵にて北を攻る事己に迫れ

りとて上下皆色を失ひければ袁術手足の措とまろを知ず急に諸大將と相議るに楊大將申けるゝ今年ゝ壽春ゝ水旱の患ありて五穀熟せず今又兵革を受て人民甚く恨を嗟く寄手四方より競ふて防ぐべき質あし如ず此城にゝ守の勢を殘して出で戰ふ事あらしめば敵も長々の陣に氣疲れ兵粮乏しくて自然あ壞せん陛下ゝ御林護衛の兵ばかりを率ひて淮水を渡らせ玉へ是一ッにゝ兵粮の費を省き二ッにゝ敵の銳氣を避んあり と云ければ袁術然るべしとて李豐樂就梁剛陳紀四人の大將に精兵十萬を付て壽春城を守らせ其身ゝ庫府の金銀珍寶を車にのせて相從ふ者二十萬人聯絡して絶す淮水を渡りて去にけり曹操ゝ手勢三十萬に餘りければ日毎に費す處の兵粮幾千萬といふ事を知ず況んや諸郡數年の水旱あ百姓皆飢疲れて木の根を掘草の葉を採て僅に命を續ばかりなれば掠め取べき物もあし右てゝ此陣叶ふまじ諸軍勢力を激して城を一時ゝ攻落せとて速かに戰ゝんとすれば城中嚴しく守りて出合ず兎角する程に一月餘りも過なれば陣中已に兵粮に盡て人馬漸く飢に臨む是によりて吳の國へ使を馳て孫策に米十萬石を借て分ち施すと雖も又不日に竭ぬ呂布玄德も形の如く我本國より運漕すと雖も路遠けれゝ叶ひ難し兵粮の揔官任峻と倉奉行王垢と來て曹操に申しけるゝ御方の勢雲霞の如くにして如何すれども粮續かず丞相宜しく料ひ玉へ曹操申けるゝ我も爲べき質なし汝先小斛を以て粮を與へて暫く一時の急を救へ王垢申るゝ然らば兵共の怨む事もや候ゝん曹操が曰く我一ッの質あり先小斛を用ひて粮を分ゝ王垢命を領し毎日粮を贈り與ふる者共に小斛を以て施しければ曹操密かに陣中の樣を窺ひ聞しむるゝ諸軍皆怨を含み此彼に寄合て曹丞相如何あれば右我等を欺き玉ふど兵粮の數足ずとつぶやく曹操急き王垢を召て申しけるゝ諸軍今我を怨んで如何非あすべき樣あー汝に一物を借て之を靜めんと欲す必ず妻子を心に介あ我よく〳〵發ふべし王垢問て曰く何を某に借玉ふべきぞ曹操が曰く汝が頸を借んと欲す王垢驚いて申けるゝ某如何ある罪か候ど曹操が曰く我能汝が罪あきを知る然れども汝若死せざる時ゝ三十萬人の心盡く變せん王垢哀んで再び言んとするを曹操武士あ命じて一刀に頸と斬せ竿に指あげ榜を立て諸軍あ示し王垢私ゝ粮を盜んで小斛を用ひたり此ゝ依て謹んで軍法を正し頸を刎る處ありと觸させければ三十萬の勢之を見て扨ゝ丞相の所爲ゝ非ず王垢が私より發たる事ありと云て怨る者こそあかりけり其後いよ〳〵兵粮乏しく成なれば曹操諸人に法を出して申しけるゝ此城を三日の内に攻落すべし怠る者ゝ立處に誅せんとて自ら馬に乘て濠際に到り兵を下知して濠を塡させ燒草を積んで矢倉を燒落さんとすれば城中より射出す矢雨の如く大木大石を飛す事雹の如し寄手之ゝ怕れて少し引退んとするを曹操自ら劍を拔て立處ゝ二人の首を刎ければ諸軍皆震ひ恐る曹操自ら馬より下て土を運び草を擔ふて濠を塡ければ大小の將士之あ激されて丞相此の如くある上ゝ諸軍何ど命を惜まんとて切ども射ども顧みず乘起〳〵攻上りて喚き叫ぶ聲天地を崩すされば城内も力と限りに防げども已に色めき渡りて見へければ夜ゝ入て寄手の内あ先を爭ふて壁を登る者あり曹操之を賞して夥しく金銀を與へければ諸軍なしかい勇ざらん此より軍威大ひに振つて了に一方の門を打破り大軍盡く込入しかば城中の大將李豐陳紀樂就梁剛等盡く生擒れ市に引出しく首を刎られ曹操城中に入て軍民を安んじ袁術が建置たる宮殿樓閣を一宇も遺さず燒つくさせ壽春已に平定しければ又淮水を渡して袁術を追んと議するに荀彧諫めて申けるゝ近年飢饉打續きて人民安き心あさに又兵乱の患ゝ逢ば怨哭く者多からん若遙々と淮水を渡りて急に勝事能ゝずんば退かんと欲すとも叶ふまじ如じ都あ回りて來春麥の熟する時を待玉へ曹操如何せんとて心決だ決せざる處に忽ち都より早馬到來し張繡前あ荆州へ落て劉表と頼み居たりしが南陽張陵の軍勢之に從ふあ因て

勢ひ漸く振いんとす曹洪此由と聞付急に押寄て戰ふと雖も毎度利と失つて引退く張繡いよ〳〵勢を集め虛に乘て都に攻上らんとす遠かに御旋りあるべしと告げれば曹操色を失ひ劉表と張繡と力を併せて攻上らば勇々しき大事よ及ぶべし呉の孫策に命じて兵を起して荆州を攻んとする体をあさしめば劉表是を防がん爲め出て外に向ふ事あるべし劉表若國を出ざる時い張繡が一軍小勢よして破り易からん我早く打滅して禍ひの根を斷んとて呉の國へ使を馳て孫策に荆州を攻る勢ひをあさしめ兵を收めて都に回りけるが呂布と玄徳とに義を結びて兄弟の約を致させ玄徳を小沛の城に回し密に私語て申しけるい御邊を小沛の城に置い是陷坑と掘て虎を待あり只よく陳珪陳登と心を合せて呂布を殺すの計事を運さるべしとて相別る此頃長安より都へ早馬を立く將軍段煨伍習二人兵を起して李催郭汜と討殺し其一族二百餘人を生捕て朝廷に献つると奏しければ百官皆喜んで生捕を市に引出して誅せしめ大歓の張本あればとて李催郭汜が首を路頭に曝す人民之を見て酒を沽て賀をなし舞謠ふ聲家々に遍ねし朝廷にも公卿僉議ありて酒る朝歓の滅びさるあい古の吉例あ依て御賀あるべしとて天子を殿中に請し奉りて文武の百官尽く太平の酒宴をあし段煨を盪寇將軍とし伍習を殄虜將軍として初めの如く長安を守らしめ玉ふ

○勝負を決して買朔兵を談ず

時よ建安三年夏四月曹操淮南より都に回り朝に出て天子に見へ早く張繡を討んとて兵を調へて打立ければ天子親ら御車を促して城外に送り玉ふ路次の人民大軍の通ると聞て折節麥の盛んあるを軍勢の狼藉を怕れ家を弃て逃走る曹操暫く陣を取て其邊の村老百姓と尋ねさせて本の家に回らしめ地頭を召て申しなるい我天子の勅命を受賊を伐て民の害を除く今麥の熟せる時に兵と出すい己を得ざる事なり此處を通るあ諸の大將末々の士卒までも麥を害ひ田地を踏荒し人の所物を掠取者あらば忽ちあ頸を刎ん王法あ親あしよく之と守れとて秋毫も犯を事あけをば路々の百姓地に拜して聖德と稱し喜ぶ事限りなし凡ろ諸軍麥の邊りを通るにい馬より下手を以て麥を扶け相傷へて通みなる曹操が馬卻何したりけん鳴の飛あ驚いて躍り馳て麥の中へ走り入麥多く倒れければ曹操曹く兵を留め行軍主簿を召て我麥を多く害へり此罪を如何せんと云ければ主簿答へて申けるい丞相の言令嚴か從いざらん曹操が曰く我自ら法を出して又自ら法を犯せ何を以てか人を服する事を得んとて劍を抜て自害せんとす諸將急に揩止めければ郭嘉申しけるい古へ春秋の義法貴きに加へず今丞相大軍を統て自害し玉ふ事やある曹操申けるい春秋已よ法い貴き人よ加へざる事なり我之を忘たり然らば父母の賜たる髮を切て櫛よ首に代んとて劍を抜て髮を切ければ諸軍悚然として其正しきを感じ彌々法を守りて恐れ謹ませといふ者あし時に五月の末に到り南陽を指て進むに諸軍皆長途に疲れ山路を經て打通るに暑氣堪難く喉かいひて水を求むれども水あし上下息を休めて暫く進まず曹操密かに計事を案じ出し馬上より鞭を以て指教へ此より先あ梅の林あり早く行て梅の實を取と云けるば諸軍みあ口に津を生じて少しも渇せず忽ちに難處を越たり世の諺に梅酸の渇を止ると云い此あり張繡い南陽の城に在て曹操が向ふと聞色と失つて急に荆州へ人を走らして援の勢を求む雷敘張先といふ者を先陣とし自ら半途に出て陣をとり賈詡を留めく城を守らしむ去程に曹操兵を引て近付ければ張繡自ら馬を出し大音揚て申けるい曹賊汝い仁義と假て人を欺く禽獸あり必ず天の罰を受べきぞ曹操大ひよ怒り虎侯い出ぬかといふに許褚之あ応とて打て出たり張先鎗を撚りて迎へ合せ戰ひ三合あらざるに許褚に斬て落されければ張繡が勢怕れ驚く曹操見そまして急に兵を進めければ散々に乱れて一支も支へず我先あと城中へ逃回る曹操勢ひに乘て直ちよ南陽の城下よ到り四方を囲んで攻ければ張繡も堅く守りて鉄砲火箭を打出し鉄を

沸して漲ぎ懸させ壞まゝ大河を塞入たれば水の勢ひ急あして寄付べき便あし曹操下知を傳へて土を運ばせ柴薪を稠わげ沙囊を重ねて其上に雲の梯を擇へ城を目の下に直下して入替〳〵攻戰ふ曹操自ら城の四方を能々窺ひ毎日西の門あ大勢を指向柴を稠土を縞せ梯を連ねて偏へに此門より攻入んとす張繡四方より攻られて愛き心あきに曹操自ら西の門を手痛く攻て三日が間息をも緩せざりければ如何せんと躊するゝ賈詡申けるゝ某よく曹操が計事を推したり敵の計に就て却て計事を用ひば曹操が不意に出て忽ちゝ擒にせん張繡が曰く聞くば聞ん賈詡曰く某矢倉の上より見るゝ此三日の間ゝ曹操自ら馬に乘て城を巡る彼が意ゝ此城の東南の角に鹿垣逆茂木の書くして半すぎ朽たるを見て此が破り易からんと思ひ急あ打破りて攻入んと計り態と西の方を急に攻る体をあし城中の者共之を防がんとて盡く一處に集りたるを窺ひ却つて不意に東南の角より入ん爲なり張繡が曰く然らゝ如何して防くべきぞ賈詡が曰く是何の難き事かあらん此邊の百姓を集めて西の門を守らせ時々鼓を打喊を作りて大勢防ぐ体をあさしめ屈强の勢を盡く東南の方に鳴を靜めて伏置鉄砲を響すを合圖に盡く打て出る者あらば曹操を生取すといふ事あけん張繡限りあく喜び百姓を西の門ゝ集めて喊を作り鼓を打せければ衆の如く曹操自ら兵を卒し城を破る事今夜にありとて彌々西の門に大勢を添雲の梯を推寄て天地も崩るゝが如くに見せければ城中にゝ喚き叫んで防く体をあす夜も已ゝ二更の頃に至りてスハヤ時分よきぞとて曹操撰りたる兵を驅て直ちに東南の角に廻り鹿角逆茂木を打破るに防がんとする者もあし扨ゝ西の門計に集り居て此を知ざるあれ速かゝ進めとて木戸を打破りて込入に出合者一人もあく只西の門に鼓の聲のを聞へけるが忽然として一聲の鉄砲耳根に響きければ此ゝ如何と驚く所に喊の聲地を震して十方より火をかけ伏の勢雲霞の如くに起りければ曹操騰魂ひも身に添ぎ馬を拍て出んとするゝ張繡後より掩殺し東南の門を排いて城中の勢盡く出ければ曹操か軍勢あちけ亂れて討るゝ者數を知ず壞ゝ死人にくぞ塡めたりゝる張繡追討に攻て殺して五更の頃に及び曹操十里餘り退きければ城中の勢之までぞとて引回し敵の捨たる馬物の具兵粮を取たる事限あかりしかば上下勇み悅ばずといふ者あし曹操ゝ這々あ逃て討殘されたる者と見るに痛手を負ぬ者もあく一夜の戰ひに死人五萬餘人と覺しければ再び戰ふべき力もあくて都を指て回らんとす城中にゝ賈詡密あ曹操が都へ回る由を窺ひ聞て急に荆州へ書簡を遣し太守劉表に兵を出して曹操が後を塞げといふ劉表之を聞て早く打て出んとするゝ番の兵來り告て呉の孫策兵船を揃へて此處へ攻來らんと企つると云ければ心の内怖れ驚き用心嚴〻くして敢て輕々しく動かず時に蒯良諫めて申けるゝ今孫策が兵船を調へて攻來る勢ひをあすゝ曹操が下知を受て敵を疑ゝしむる計事あり實に攻來る事ゝいまゝ近頃曹操南陽の戰ひに負て力

曹操清水小蛇章の靈を祭る

を失つて逃上る此得難きの時あり若勢ひに乗つて平げずんば後必ず大ひなる害をあさん早々に打立玉へ劉表賢も
と同心し黄祖と江の邊ゑ遣して孫策を壓へさせ自ら兵を
引て安象といふ處まで出張し路を截塞いで曹操が上るを
支へんとも張繡も劉表が消息を聞今度曹操を生擒すんば何
の時か期ん追詰て前後より討取とて勢ひに乗て追かくる
曹操い敗軍を收めて都を指て上りゐるが襄城に到りて消
水を通る時馬上にて哭き哀しむ諸人其故を問ゑ答へて申
けるい去年此處ゑて戰ひし時典韋我を救ふて討死せり此
を思ふて哭くありとて頻りに涙と流しゐれば聞人皆感嘆
す暫く水邊に陣を居て牛を宰馬を殺して祭を設け再拜し
て典韋が魂ひを招き麝を放つて哭きければ大小の將士皆
涙を流す次に姪の曹安民を祭り次に嫡子曹昂を祭り又其
時に乗たる絶影馬を祭り討死せし士卒とも悉く祭りけれ
ば諸軍號哭の聲止ず時に都より荀彧早馬を立て荆州の劉
表兵を安象に屯しば上の路を塞いで張繡に力を併せ侮用
心あるべしと告ければ曹操冷笑つて驚きたる氣色もなく
急に返簡を調へ我しづ〳〵と退けども忍に敵の來るを知
る已に計事を定め置たれば少しも怕るゝ事なー安象ゑ到
らば必ず敵を破るべしと書て使を都へ回し進んで安象の
界に着て向ふを遙かゐ見やれば案の如く荆州の兵難處を
截塞いで待懸たり時ゐ後より馬烟りと立て張繡追來ると
告ければ曹操山に沿て陣を取夜中に人の適いぬ山際の路
を穿開かせて精兵を潛し置疑と小勢に見せて叩へされば
夜明て劉表張繡が兵之を望み思ふゐ敵の勢此程に小勢な
るべしとい知ざりしが何さま兩方より攻るを怕れて大半
い落失たるらめ盛く手取ゑせよとて曽思ひ侮りて前後よ
り討て蒐るゐ俄に傍らゐる山の内より伏の勢突出して縱
横無碍に蒐たりければ劉表張繡が兵思ひの外ゐ打破られ
て死する者數を知す曹安象へ逃集まる曹操い困を出て險
阻を前に當て陣と取ところゐ又都より早馬來り河北の袁
紹此頃都の内空虛ゐると聞て大軍を起して急ゑ攻上らん
とす荀彧か書簡之にてひとて出しければ曹操急ぎ披見す
るゑ其書に曰く
近人冀州より來りて報説す田豐袁紹に謂て曰く今將軍
糧足兵強し曹操南征して未だ回らず宜く早く虛に乗て
以て許都を襲ひ天子を迎へ奉りて海内ゑ号令をべし此
を上策と爲も若機ゐ乗て之を破らずんば終に彼ゐ擒ゐ
せられん悔と雖も益なし紹之を聞て疑ひを持し未だ決
せず或い請ふ亟相都ゐ還て別ゑ區處を作し玉へ劉表
張繡い狡辯の疾憂ふるに足ず望らくば早々ゐ師と班め
大事と失する事ゐかれ
曹操以ての外に驚き今都の内空虛ゐるゐ袁紹若攻上らば
乍ち瓦の如くに解んとて取物も取あへず兵と引て驅上る
張繡之と聞て急に追かけて討んとをると賈詡諫めて申し
ゐるい必ず追べからず若追時い却て敗れん劉表申しける
い曹操都に事ありて敗軍と引て周章回ゐ我之と追ずんば
何とゐ期せんとて張繡と一手にあり一萬餘騎ゑて追蒐る
曹操い自ら後陣に居けるが追手の掛ると見て兼て期した
る事ゐれば一軍と引て取て回し散々に打破る劉表張繡し
たゝか討れて引退き賈詡に逢ては邊の諫めと用ひずして
今大ひに敗れたりと云に賈詡申しゐるい兵と調へて今一
度進玉へ張繡が曰く已に一戰ゑ負て敵い勇み傍方い弱る
事でが又追事を得ん賈詡申ゐるい兵勢い變あり急に又追
かけ玉いゝ必ず打勝玉いん萬一勝ずして回り玉いゝ某
が首を獻つらん張繡然らば追て見んとて打立けれども劉
表い疑つて從いず張繡兵を驅て飛が如く噪いて曹操が勢
ゐ打て入ければ戰いんとする者一人もなく馬物の具を打
捨乱れ騒いで逃走る張繡氣に乗て追て追んとするゑ山の
際より一手の勢討て出力を震つて防ぎしかば此迄ぞとて
安象へ引回す劉表之を見て大ひゑ驚き賈詡に問く申ける
い向に我精兵を引て追かくる時は邊之を止めて追ば必ら
ず破れんと云今又敗軍を引て再び追ば必ず勝んといふ而
して傍邊の首に逃れざるい如何ゐる故ぞ何とて此の如く

先見の明なる賈詡申けるは是知易き事なり將軍よく兵を用ひ玉へども曹操には及ばす曹操が勢實に敗軍の後あるとも追手の蒐らん事を知て自ら後陣に備へて精兵を殿りとす此故ゑ追手の勢壯んありと雖も打負べきを知る曹操已ゑ打勝て後は再び敵の追んとは思ひ寄す都に事ありて忽急ぐ故ゑ屈强なる騎馬の勢は皆前に進み其身も路を急いで一手の勢を後陣とし大將ゐ命して守らしむ此に因て重ねて追時は敵の不意に出るあり曹操が大將よく戰へども亦將軍には及ばす此必す勝べきの理ありと云ければ劉表も張繡も其高論に服して劉表は荆州ゑ回り張繡は襄城に楯籠る曹操は後軍に戰ありては方破れぬと聞急に取て回さんとするに後軍の者共馳來りて山際より雖やらん打て出て追手を防ぎ止たりと申す曹操それ如何ある人ぞと問に一人の大將鎗を挾んで馬より下路の傍らゑ躍る曹操之を見るに先年黄巾の賊を破りて勳賞を被りし鎮威中郎將李通字は文達とて江夏平春の人あり何とて此に來りて我を救ひたると問ゐ汝南ゑ在て合戰の樣を承り馳來つて力を副んとせしに敵の追蒐るを見て防ぎ止たりと答ゑ曹操神妙ありとて神將軍建功侯ゐ封じ又汝南を守らしめ已に都ゑ回りければ苟彧城外に出迎へ相伴つて直ちに朝廷ゐ出先詔を申降して呉の國へ使を馳孫策を討逆將軍呉侯に封じ荆州を攻よと下知をあす諸大將來り見へ拜賀と伸て問て申けるは適ゐ荀彧早馬を飛して劉表が安象の路を塞きたると告しに丞相の返簡に我必す敵を破の計ありと苦玉ふは如何なる故にてはと曹操苦て申しけるは劉表前を遮り張繡後より追此我に死地を與ふる者あり彼方の將士其通れ難きを知て命を弄て勵み戰ふ此に因て必す勝べきを知り此孫子が玄妙なりと云ければ諸人其論に服して悉く再拜を

（卷之七終）

通俗三國志卷之八

○夏侯惇矢を拔て眼を啖ふ

建安三年戊寅の秋曹操南陽の戰ひに負て又河北の袁紹が都を襲はんとする由と聞急き兵を收めて歸落するに諸大將皆半途まで出迎へ禁裏ゑ入て天子と拜し退ひて丞相府ゐ返りければ曹操ゆ郭嘉來り見ゆ曹操問て申しけるは汝何とて遲參したる郭嘉答へて曰く只今河北より袁紹使を馳て書簡を送り北平の公孫瓚を攻んと欲するに御方兵糧に事を欠願くは軍兵を合力し兵糧と借玉へと云送り曹操笑つて申けるは我先に途中にて袁紹が都を襲はんとする由を聞て夜を日に繼で馳上るを然るに今書簡を送りて左樣なる事を云は我已に都へ回りゐるを知て心ゐ怖畏を懷き先都を攻る思案を止たれども若我怒り疑はん事を憚りて詐つて公孫瓚を攻るに兵を借ゑ糧を與よと則々しく云送る者あらんとて其書簡を見るに文体甚だ傲り放まゝあうけれは曹操使ひを留先密密に謀して申けるは袁紹右の如くに無禮をあす我常に伐亡さんと思へども力の足ざるを患とす郭嘉申けるは高祖項羽の戰は君の能知せ玉ふ處あり高祖は弱しと雖も智謀に勝項羽は强しと雖も計事を知す此故ゑ高祖の爲ゑ滅されたり某密ゐ思ふに袁紹に十敗あり君に十勝あり袁紹が兵如何に强くとも必す亡ん袁紹は事を行ふに禮義繁く君は本躰よく自然に任せ玉ふ此道の勝一あり袁紹は逆と以て動き君は順と以て天下を率ひ玉ふ此義の勝二あり漢の末は政事の寛きより乱る袁紹は寛と以て寛と濟ふ此故に民疲れず君は糾すに猛と以てして上下皆制法を知る此治の勝三なり袁紹は外寛ふして内忌人と用ふれども疑ひ多く唯一族の中と重く用ふ君は外簡にして内明かに人と用ひて疑はす才の宜きと擇んで親疎と間てず此度の勝四あり袁紹は謀と好めども決斷なく常に後悔のみ多し君は計事あれは即ち行ひ疑に應じて弱りなし此謀の勝五あり袁紹は累世位高くて高議揖讓名ある人と集の辨舌と巧にして外と飾者衆く德服す君は誠と以て人と用ひ心と推て虛美と爲す儉と以て下と率ひ功ある者に恩賞して吝み玉はず人の忠正遠見にして實ある者皆用ひられん事と願ふ此德の勝六あり袁

紹い人の飢寒たると見てい哀憐の色形ると雖も目の及ばざる所い一つも知ず此所謂婦人の仁なり君い目前の小事い忽せにして大ひある事の四海に與る程に至てい接恩の加いる所皆其望みに過ぐ目の及ばざる所と雖も救ひ玉いずと云事あし此仁の勝七あり袁紹い大將皆權と爭ふて讒言其主と惑いす君い下と御るに違と以てして浸潤行われず此明の勝八あり袁紹い是非と分たず君い是あると進め非あると退け進るに禮と以てし正に法と以てす此文の勝九あり袁紹い盧に乗事と好めとも兵要と知ず君い寡と以て多に克兵と用玉ふ事神の如く軍人是と恃み敵人い畏る此武の勝十あり君此の如く十勝あり袁紹何ぞ亡びざらん曹操申しけるい御邊が云ところ我敢て及ばず然れども今袁紹と伐んい如何に郭嘉が曰く呂布都近き徐州に在て心腹の患あり今袁紹兵と起して遠く北平の公孫瓚と攻に行如ず此間に先呂布と平げて其後に袁紹と伐玉へ今若輕々しく袁紹と伐んとし玉いゝ呂布必ず盧に乗て都と窺んん曹操實もと喜び夜に入て密に荀彧と召て申けるい汝いい袁紹が盧實と知さるか荀彧が曰く今日使來れりと承いりしが未だ其故と聞候いず曹操乃ち書簡と出して見せしむるに荀彧申けるい袁紹が書簡の面何とて右無禮なる曹操が曰く常に袁紹と伐んと思へども力の足ざると患るあり荀彧申けるい古の成敗い誠に其才あれば弱し云とも必ず强し荀くも其人に有ざれば强しと雖も必ず弱し高祖項羽の存亡是なり今君と天下と爭ふべき者い袁紹一人あり某よく袁紹と見るに外寛ふして內忌を人と用ふと雖も心に疑ありて親疎をなす君い明達にして拘らず唯才の宜きを擇んで用ひ玉ふ此度の勝あり袁紹い遲重にして決斷あし事必ず後に悔あり君い能大事と斷じ變に應じて躬りあし此謀のいあり袁紹い軍と御する事寛ふして法令正しからず士卒多しと雖も實い用ふるに足ず君い法令己に明に賞罰正しく行ひ玉ふ士卒寡しと雖も皆命と楽んと勇む此武の勝あり袁紹い累代高位に昇りて讒諛の人と容る

に從がひ智と飾る名高く衆ある者い用ひられて士の能寡ふして問と好む者多く歸服す君い至仁と以て人と用ひ誠と推て盧美せず己れを虛む謙儉にして功ある者と賞して惜む事あし此故に天下忠義の士蠭く用ひられん事と願ふ此德の勝あり此の如く四勝ありて天子と輔け義に依て征伐せば誰か敢て順ひ靡かざらん袁紹が輩何ぞ誚に足ん曹操が曰く汝偏へに我と擧我之に及ばずと雖も今袁紹と伐んい如何に荀彧申けるい然らず今呂布徐州に在て常に野心と挿む若之と楽て袁紹と戰ひ玉いゝ呂布盧に乗て都と襲いん如ず書簡と以て袁紹が心と安んじ官職と加へて米千斛と合力し彼が公孫瓚と遠く北平にて戰ふ間に先呂布と平けて禍ひの根と絶後に歇あさ樣にして心安く袁紹と伐玉いゝ滅さん事掌にあり曹操手と拍て大ひに笑ひ郭奉孝が機荀文若が智劃符と合せたるが如し陳平張良も此上にい出べからず我先呂布と伐んとて密かに小沛の城へ使と遣し劉玄德に此事と知せ夜明て袁紹が使者に對面し

て重く持成天子の勅諚ありとて袁紹と大將軍大尉に進めて冀州青州幽州幷州と併せ領せしめ都の内も事多きに依て軍兵と借事能はず此故に兵粮米千斛を送る早く北平へ征伐せらるべしと云て使者と回しければ袁紹悦りあく喜び國中の勢と催して馳て北平へ推寄公孫瓚と合戰す此時徐州には呂布常に陳珪陳登と重んじて此に過たる忠節人は有まじと思ひ萬心を盡すして二人の料ひに隨ひ明暮只酒と飲で娛みをなす陳珪父子も深き所存ありければ頻りに德と稱して呂布が心と悅ばしむ陳宮元より智謀深ければ陳珪父子が呂布と默いて曹操に内應をる事と省り必ず大びある禍ひと惹出さん事と恐れ或時呂布に告て申しけるは陳珪父子百と巧にし色を令し諛り媚て將軍と歡く然るに將軍此二人と重んじて心腹の大事と議し玉ふ今早く省え玉へずんば必定滅亡と取玉ふべし呂布勃然として怒て申しけるは汝讒言を以て此賢人と退んとす誰とか昭侯と云ん我若書日の事を思はずんば必ず頸と斬ん者をと罵りければ陳宮慚愧して外に出我忠義の心を明す事能はず却つて殃ひを受んとす然れ共今身と逃れんとせば天下の人の笑に遭んと云て心の内閑々として樂しまず四五騎の手の者と引て憂と忘れん爲に小沛の邊に出廣き野にて獵となす時に都より往來の道筋に由ある人の使と覺へて傳馬に馳て通る者あり誰あらんと怪しみ急に追かけて何人の使にて誰の許へ行たるぞと問に驚き怕れて答へざりければ扨は故ある曲者ぞとて兵と下知して搜さしむるに玄德より曹操に答ふる書簡と取出す必ず事の仔細あらんとて使と縛り來りて呂布に右の趣きと語る使と實て事の樣と問に某は曹丞相の命と受て小沛の城へ書簡と送り今玄德の返簡と取て歸る者ありと答へければ其返簡と披き見るに曰く

今相公の命と奉けて豈夙夜に心と用ひざらんや備兵微に將寡し敢て妄に動かず望ひらくは相公大ひに王師と鼎て到り來れ備用て先駈と爲ん呂布は乃ち虎狼の輕んする時は則ち猖獗せん備兵と嚴にし甲と整へ專ら鈞命と待つ

呂布以ての外に怒り曹操匹夫密に玄德と約して我と殺さんとす先其使と斷て弄よ我兵を越して攻上らんとて即時に使の首を刎陳宮臧霸を大將として泰山の强盜孫觀吳敦尹禮昌豨あんと云盜者を語ひ山東の州郡に攻寇らせ高順張遼と小沛の城へ指向て玄德と攻させ宋憲魏續を汝潁の邊に向はせ自ら徐州の境に出て三方と援け救ふ此由早く小沛へ聞へければ玄德如何せんと驚と冷し諸將と計と議するに孫乾申しけるは急き都へ早馬と飛して曹操に救ひと求め城と固く守りて防き玉へ玄德實もとて關とか使とせんと宣へは一人進み出て曰く某願くは行ん諸人之と見れば乃ち玄德と同鄉の人に間雍字は憲和といふ者あり玄德喜んで書簡一封を夜と日に繼て打立せ偏へに籠城の用意として自から南の門と固め孫乾に北の方と守らせ關羽に西と守らせ張飛に東と守らせ糜竺は糜夫人の兄たると以て糜芳と共に軍中と司どりて妻子老小と守らせ鹿角遊茂木と引かけて敵の來るを待玉ふ去程に寄手の大勢城の四方と取囲んで生手と入替〳〵息とも纏ず攻たりければ玄德矢倉に上りて大音揚我元より呂布と仇あし何故兵と指向たると呼はり玉ふに高順答へて申しけるは汝密に曹操と計事を合せ我君と害せんとし幸ひに天の助に依て事忽ちに露れたり速に頸を延て刀と受よと罵りければ玄德默然として言あし高順壞の邊まで攻寄暮に及ぶ迄戰を促せども城中堅く守りて出る者あし張遼は西の門を攻けるが關羽内より固めて高櫓に上り大音揚て汝は張遼に非ずや元より汝が人品は尋常の人とは見へず何とて天に背き道を忘れて逆臣の呂布に事るぞと耻しめければ張遼如何思ひけん首を低て言ず關羽之を見て扨は此人忠義の志ありけりとて互ひに陣と取向ふて少しも惡口を吐ず張遼も兵と制して城を攻ざりけり關羽は此間より東の木戸心元あしとて人を遣はして見せしむるに張飛寄手の惡口に腹

を立て門を開いて打て出たりと申す關羽急に行て見れば張遼密かに東へ廻り張飛と火を散して戰ひけるが關羽を見て引退く張飛急に趕んとするを關羽推留めて城中へ回り兵に命じて堅く守らしむ張飛申けるゝ我己に張遼を追蒐ゝ生取んとせしに何とて留め玉ひしぞ關羽申けるゝ張遼が武藝ゝ我等が下に出ず我先に言を和げて恥しめたれば己に順へる心あり今戰ひを休て退きたるゝ此故あり張飛之に心付て再び出ざりければ玄德も亦深く警めて緊く門を守らせらる呂布ゝ自ら下邳の城を攻けるに要害堅固にして急にゝ落まじと思ひ兵を殘して違攻にせさせ自ら小沛へ向ひ來る玄德之を聞て矢倉の上より大音あげ某ゝ元來呂將軍と恩ありて警ゐし曹操天子の勅命を傳へて我兵を催せといふ從ゝまんば有べからず此故に返簡を遣ゝす我何ぞ呂將軍に向つて弓を拽害を成んと呼ゝり玉へば兄布も理りとや思ひけん只圍たる斗ゐて急にゝ攻んともせず自ら徐州ゑ回りて思案を廻らすに曹操を敵に受てゝ了に好るまじと思ひ大將報萌を淮南の袁術の處へ遣ゝし我元より大王と婚姻を約して一家の好を結ばんとせしに誤りて一旦曹操に出抜れ剩へ合戰に及んで日比の意に背く今之を悔れども甲斐あし嘱くば我女を送りて互ひに唇齒の交を結び曹操を破らんと樣々に云せけれども袁術初めに手ごりて一圓に聽入ず報萌空しく回り兎角恩女を淮南へ送りて其後に交を結玉ゝずんば袁術事の變を恐れて心解まじと云に呂布沈吟して更に決せず此時簡雍ゝ夜を日ゑ繼く都に上り曹操ゑ見へて事の急を告ければ曹操諸大將を集めて申しけるゝ我今呂布を伐んと思ふ袁紹ゝ遠く北平へ行たれば恐るゝ事あし只劉表と張繡と我後ゑ在て虛を窺つて都を襲ゝん事を恐るあり荀攸申けるゝ劉表張繡新たに敗れゑる後あれば爭でか輕々しく兵を興し來らん呂布ゝ猛き虎あり若袁術と一味して淮泗に縱横せば英雄の武士從ひ付て大ひある禍ひを成ん今勢ひの小あるに乘て速かゐ根を絶玉へ曹操美も申たりとて旗下の大軍を整へ先行て小沛の城を救へとて夏侯惇呂虔李典三人に五萬の勢を授けて向ゝしむ其勢已に徐州の境に着ければ高順之を聞て呂布に報ず呂布驚いて侯成敵萌曹性三人に二百餘騎を付て高順を助けさせければ小沛の城三十里退いて陣を取玄德寄手の退くを見て必ず曹操が救ひの來れる成んとて孫乾糜竺糜芳三人を留めて城を守らせ自ら城を出て陣を取張飛を先陣として關羽と左右に備へ玉ふ夏侯惇ゝ打寄るとひとしく鎗を拽つて眞先に進み呂布出よ快よく勝負せんと呼ゝりければ高順刀を鋒して五十餘合戰ひ叶ゝずして走りけるを夏侯惇遂あし返せとて力を盡して追かくる所に傍らより呂布が大將曹性近々と走り寄よく拽て兵と射る其矢夏侯惇が左の眼に中りければ夏侯惇之と事ともせずかゐぐりて矢を拔に鏃目の珠と共ゐ出けるを大音聲を揭て此ゝ父の精母の血あり空しく棄べき樣なしと呼ゝりて口に入て啖了り高順をば打棄曹性に飛かゝり只一鎗に突殺す高順急に取て返し兵を駢て攻ければ夏侯惇眼頻りに猪みて戰ふ事能ゝず己に危く見へたるを弟の夏侯淵力と聲ふて救ひ出し李典呂虔と一手にあり追蒐る敵を打拂つて潛北ヱ引退く呂布御方の勝たるを聞て自ら馬を飛ーて來り早く勢ひに乘て攻破れとて自ら關羽が備へに打て蒐り高順と張遼とゝ張飛が備に打く蒐る玄德之と見く手下の勢を二手ゑ分遣んで戰ゝんとし玉ふゑ呂布電光の如く後ろより襲いて蒐ければ關羽張飛が陣中騷き亂れて討るゝ者麻の如し玄德遂あ叶ゝず城中へ透入んとし玉へば呂布隙間もなく追來る玄德壕の邊に到りて橋を渡せと呼ゝり玉へば内より門を開いて橋を渡すゐ呂布追つがふて入々れども矢倉の上ある兵者玄德に中らん事を憚りて矢を放たず十騎餘り木戸口に立塞りて命を拜て防きしが呂布ゑ悉く斬倒さる此故に門を守る勢四方へ飜と散ければ呂布が大軍乱れ入て火を放つ玄德すべき樣あく妻子を棄て只一騎西の門より落玉ふ呂布已ゑ中門に入々れば糜竺出迎へ馬の前に跪きて申

けるゝ玄德ゝ將軍と兄弟の交をなせり我聞丈大夫ゝ譬ゆりても人の妻子と殺さずと量るに玄德何ぞ將軍と衡を抗ゝん常に轅門に戟を射玉ひし恩を思ふて片時も忘れず將軍顧くゞ憐み玉へ呂布申けるゝ我と玄德と義を結んで兄弟たり爭でか情なく妻子を殺すべき汝盡く引具して事の靜まらんまでゝ徐州の城に住まれ若猥りに猥雜を爲ものあらゞ之を以て斬て罪よとて自ら帶たる寶劍を解て與へけれゞ糜竺喜びて拜謝し玄德の妻子を車に乘て徐州の城へぞ入よける呂布ゝ小沛の城に高順張遼を籠置自ら山東兗州の境に出張し關羽張飛孫乾等ゝ散々に略て山林よ身と寓密に玄德の行末を問尋ぬ

○呂布下邳城に敗走す

玄德ゝ只一騎小沛の城を逃れ出都へと志して山の傍らと過玉ふ處に孫乾數十騎を引く尋ぬ來り手を執て哭き哀しむ玄德嘆じて關羽張飛が行方をも知ず妻子一族の存亡とも知ず我獨生て耻を曝んより只此處にて自害をせんゝ如朽果んより我と共に都へ上り玉へと勸め玉へゞ劉安辭して申しけるゝ某が老母を養ふべき者なし此故に遠く去べからずとて別れしかゞ玄德馬を早先て梁城に着けれゞ向より馬烟を立て限りなき人馬出來りしかゞ人と遣ゝして見せしむるに曹操が大軍あり喜んで中軍に入曹操ゝ見ゐて小沛の城破れ二人の弟妻子老小盡く行方なく成たりと語り玉へゞ曹操感嘆して共に涙を流す玄德路ゝて劉安が女房を養たる事を語玉ふに曹操其志の切なるを感じ孫乾を使として劉安に金百兩を送らせ大軍を推て濟北よ到る夏侯淵急き見えて兄夏侯惇が左の眼を射られて痛甚いだしき由を告けれゞ曹操都へ送り上せ斥候の兵を出して呂布が消息を聞しむるに呂布近頃陳宮臧霸と泰山の强盜と語ふて兗州を攻ると申すさらゞ攻よとて曹仁に三千餘騎を付て小沛の城に向いしめ自ら玄德と二十萬の勢を引て山東の境ゝ出遙かゝ蕭關と望み見れゞ泰山の强盜孫觀吳敎尹禮昌豨四人三萬餘騎よて陣を取ゝり曹操蹴散し

何にと宣ふと孫乾諫めて申けるゝ何條今さる事有べき諸人殘らず討れぬと知たらゞこそ兎も角も思案と爲べし未だ何の聞定めたる事もなく空しく此にて死ゞ千歲の笑と取ん早く都ゝ上りて曹操を賴み玉へ玄德之ゝ從ひ路と尋て馬と早めけるが飢疲れて村の内に入食物を求め玉ふゝ田夫野人までも劉豫州の來り玉ふと云て爭ふて食を獻つる日已ゝ暮けれゞ獵師の家に宿して家主の名を問い今い流落たれども漢家劉氏の苗裔にて劉安といふ者あり幸ひよ劉豫州ゝ見ゆる事を得たりと云て喜ぶ事限りなく山野の禽獸を獵て持成んとて遍く求れども折境一頃か得ざりしゝゞ詮方なさよ密ゝ女房を斬殺し其肉を煑て獻つる玄德如何なる肉ぞと問玉ふに狼の肉ゝてゆと云々れゞ孫乾と共に飽まで食し夜明て打立時廐に入て馬を出さんとするに厨の傍よ一人の女を殺しく臂の邊の肉を削取かる有けれゞ驚いて其仔細を尋ね始て女房を養て持成たると知けれゞ感傷して息ずゆ志の程誠に忘れ難玄此處にて

て弄よとて許褚と眞先に進めければ四人の賊將均しく馬を出し火を散して戰ひけるが許褚に斬立られて四方へ颯と引退く曹操之を見て嵬れや者どもと下知をあせば大軍潮の湧が呼く蕭闘せで攻付たるに討るゝ者數を知ず右往左往に落て行く此時呂布ハ徐州の城へ回りけるが小沛の城を敵攻ると聞て自ら救ハん爲に陳珪陳登を召て敵を防ぐの計と議し陳珪ハ留りて徐州を守れ陳登ハ我と從ひ來れとて急に人馬を揃へしむ陳登密かに父に告て曰く向に曹操東國の事ハ盡く我等父子に任せ置と云玉へり呂布が滅亡近きにあり早速曹操に內應すべし今某を小沛に伴ひ行んとす某密かに計を成べし呂布もし打負て曹操に追れ來るとも父此城を能守りて糜竺と力を幷せ必ず呂布を城中へ入玉ふな某期に臨んでハ身を脫るゝの計ありと低語けれハ陳珪申しけるハ呂布此城を第一として妻子一族と盡く留め置我如何ぞ猶事を成ん陳登申しなるハ御意と雲んと玉へ某計事を以て外へ移すべしとて呂布已に打立んとする時見へて申けるハ徐州の城ハ四面に敵を受たり曹操も此城を第一と目に掛ひ若事の急あるに至ちハ外に退くべき樣あからん如ず此城の金銀兵粮を過半下邳の城へ移し入て此城の危き時にハ退いて下邳の城を頼みとし玉へ呂布寶んで申けるハ汝が敵我意に合へり徐州ハ本城なれハ敵も偏に目に掛べし我妻子一族をも下邳の城に移置べしとて宋憲魏續二人に命じて妻子幷びに金銀兵粮と下邳の城に移させ小沛を指て出けれハ陳珪今ハ憚る事なしと喜び糜竺と計を合せて徐州の城を堅く守り呂布回り來らハ一矢射んとぞ用意しける呂布ハ浩る事をハ夢にも知ず徐州ハ第一の城なれども陳珪と留め置たれハ必安し早く小沛の殺攻をして敵と追拂ハんとて陳登と萬心を合せ半途まで出けるが曹操自ら蕭闘を攻る事急なりと聞て先蕭闘へ行んと云陳登申けるハ將軍ハ兵を率ひて徐々と來玉へ某ハ先行て敵の虛實を窺ハん呂布申けるハ如何なる故に先行んとする陳登が曰く泰山の孫觀吳敦等ハ呂布大ひに喜び汝は誠に忠義の人なり勞を辭せずして君の爲にすと云て後陣を押へて進ませず陳登數十騎を引て蕭闘に至り陳宮臧霸に逢て合戰の樣を問呂將軍何故にか深く此邊遠と疑つて輕々しくハ此處に來り玉ハず必ず害せらるべきぞと低語けれハ陳宮驚いて申けるハ我何をか疑いるべき今曹操が勢壯んなりと雖も久しくして必ず變を生せん事を料り我等難所に支へて合戰をせず此故に少しも危き事なし呂將軍ハ先小沛の城と救ひ玉ふべきに何とて此に來り玉へる陳登申しけるハ此邊を疑ふてなり油斷し玉ハゝ害に遇玉ハんとて高櫓に上りて望み見るに曹操が大軍已に壕の邊まで推寄たりけれハ密に內應の書簡を三通書て箭の根に付夜中に曹操が方へ射下して次の日別れて出んとするに陳宮申けるハ此處ハ我等よく要害に支へて危き事なし汝身ハ呂將軍を勸めて小沛の敵を追拂ひ玉へ陳登我此由を申さんとて馬を飛して回り呂布に見えて申けるハ某行て窺ひ見るに案に違ハず孫觀吳敦等共に野心を揮んで曹操を引入んとす某よく陳宮と計を合せ今夜必ず將軍を勸めて討しめんと約せり呂布喜んで申けるハ邊若先行ずんハ我必ず大事を悞らん再び行て陳宮と計を合せ今夜火の手を擧て合圖とせよ我之と見ハ急に進んで殺すべし陳登承りんとて又馳て陳宮を召出し曹操が勢密に山と越て攻入ると徐州の城を囲む今ハ此處を守ても甲斐なし速かに回りて徐州を救ひ玉へと云ければ陳宮コハ如何にと膽を冷し取物も取敢ず蕭闘を棄て走りける陳登ハ闘門に火の手を揭て曹操が勢を引入けるに呂布ハ兼ての合圖を乖へじとて火の手を見るゝ均しく兵を驅て進み來るに暗さハ暗し半途まで陳宮が勢と出逢互ひに敵ぞと心得て喚き叫んで戰ふ所に曹操大軍と引て散々に蒐破りしかハ呂布も陳宮も殘少なに討れて吳敦孫觀等ハ行方を知ず夜明て後陳登が回忠にて曹操と引入たりと云沙汰しなれハ呂布以ての外に仰天して討殘されたる

兵を集め陳宮と共に徐州へ回り城中へ入んとするに矢倉の上より箭を放つ事雨の如くなりければコハ如何ゑと驚く所に糜竺城上に立現れ大音聲を擧て呂布匹夫汝伴りて我君の徐州と奪へり今舊の如く取回す早く何方へも落行と呼いりける呂布問て申けるゝ陳珪い其内にい居ぬか糜竺答へて曰く我已に斬て棄たり呂布色を失ひ左右を顧て陳登い如何ありたると問に今朝より行方知ずと答ふ陳宮怒つて申けるゝ當に某か諫めを申せしい落るべしと推したる故あり然るに將軍彼ゐ迷されて某を用ひ玉いず今此の如くあるゐ至りても猶迷をとりて惡人と尋ね玉ふゐ呂布後悔すれども及ばぢ爲方あさに小沛を指て來る所に半途にて高順張遼に出合たり何とて來ると問に高順申けるゝ某よく小沛の城を守りて防ぎ戰ふ所に陳登馬を飛して馳來り君已に曹操に囲れ玉へり早く行て救ひ奉つゐ我よく城を守らんと云り此に依て取物も取あへず兵を引て打出たり陳宮申けるゝ此皆奴が計事あり必ず曹操が勢を引入べし呂布齒を切りて申けるゝ我常に陳登父子を重んずる事汝等が知處あり然るに我を出抜て曹操に內通す掘つて恨を雪ぐべしとて小沛を指て打向ふ陳登い城を請取て後曹仁が勢を引入呂布が來ると聞て自ら高樓に上り大音揚て申けるゝ呂布匹夫何とて來れる我い元漢朝の臣あり汝が如き逆賊ゑ從いんや呂布大ひに腹を立此賊と殺さずんば我何ぞ心を安んせんとて兵と下知して城を攻んとするに忽ち後より喊の聲地を動かす急に高順を出して見せしひれば一彪の軍馬襲いて蒐り眞先に進むい頭い豹の如く鬚い虎の如し乃ち劉玄德の弟張飛あり丈八の矛を提げて高順と火を散して戰ふゐ高順あじかい敵すべ兇馬と回して逃走る張飛勝に乘て呂布が備に蒐入勇と震ふて戰ふ處ゐ又喊の聲四方より起りて曹操が大勢潮の加くに進む呂布小勢にて支ふる事能いず東を望んで走れば張飛曹操逃さじと追かくる呂布人馬疲れて討るゝ者數を知ず我先ゐと逃る所に又一手の勢行前を搦りて劉玄德の弟關羽八十二斤の青龍刀を揮げ反賊何方へ走る快よく刀を受よと呼いりければ呂布是非ゐく馬を交へて戰ふゐ後より張飛霹靂の落かゝる如く喚いて蒐たりーかば呂布慌て懼いて下邳の城へ走るゐ侯成兵を引て出迎へ救ふて城中へぞ入にけり關羽張飛兵を收めて一所に聚り互ひゐ失散の事を物語し關羽い向に小沛より投落して海州ゐ藏れ此消息を聞て來れりと云張飛い茫蕩山へ遁れて山賊を成居たるが此由を聞て來きりと云て曹操に見えて禮をなし次ゐ玄德ゐ見えて共に徐州の城に入ければ糜竺出迎へて妻子一族の恙なく城中ゐある由を語る玄德限ゐく喜び玉ふ處に陳珪陳登來り見ゆ曹操酒宴を設けて賀びを延自ら中座に據て左に玄德右ゐ陳珪文武の諸將を兩邊に列ね累りに陳珪父子が功と稱揚して十縣の樣と與へ陳登を伏波將軍とす那後下邳を攻るの計を講るに程昱申けるゝ呂布大ひゐ敗れて僅に下邳の小城を賴みとす只緩々と攻玉へ自ら亡ぶべし若急に攻ば逃れ難を知て必ず一命を輕んじ淮南の袁術と一ッに成ん然る時い由々しき大事なり如ヒ大將を揮んで淮南の路條と守らせ外袁術と歷へ內呂布を防がしめ王へ況んや呂布が大將ゐ臧霸孫觀吳敦徐宣猶山東に陣を屯す是又用心ゐくてい叶ふまじ曹操申けるい此よく我意に合へり山東の路々い我自ら守ん淮南の路條い玄德よく守り玉へ玄德の曰く丞相の尊命豈敢て違いんやとて次の日手配を定め糜竺簡雍を留めて徐州を守らせ自ら關羽張飛孫乾を引つれて淮南の路を截塞ぎ邳郡を指て寄玉ふ

○白門樓ゑ曹操呂布を斬る

呂布い諸處の軍に打殘されたる兵を引て下邳の城に楯籠泗水の流に逆茂木を引て兵粮武具を用意ーければ陳宮申けるい今曹操が勢遽く來る陣屋の要害未だ十分あらざるに乘て逆寄しに玉いゃ是以逸擊勞あり必ず大ひに利を得玉いん呂布申けるい我近頃敗軍の後あれば輕々しく出べからず敵の來り攻るを待て我一度に突て出ば奴原蟻

く乱れて自ら泗水ゑ溺るべし此妙計なり事已に掌に在と云けれゞ陳宮冷笑て退出す斯て五六日過ける所に曹操大軍を驅て城の四方に向ひ城を擁へ曹操自ら二十騎餘りを率して櫓の下ゑ馬を立呂布ゑ逢んと呼ゝりけれゞ呂布矢倉に上りて何事ぞと問曹操大音擧て申けるゝ御邊我に於て元より讐なし袁術と婚姻を結び玉ふと聞て我自ら攻來れり袁術反逆の罪あり汝邊董卓を誅せる功あり我唯袁術を討て罪を正さんと欲すゆ邊若戈を倒よして我に順ゝゝ天子に奏して封侯の位を失ゝじ然る時ゝ長く富貴を受て功名立べし若迷ひを執て降らず城郭破れゞ一人も生る事能ゝじ悔るとも遲からん速かゑ思案を決ー玉へ呂布申けるゝ丞相暫く退き玉へ我商議して降るべし陳宮傍らに立居けるが大音揚て罵りけるゝ曹賊よくも煩の皮厚き汝ゝ君を欺く奸人なり反りて他人と謗れるかとて弓を取て丁と射る其矢曹操が麾蓋に中りけれゞ曹操怒つて申けるゝ我誓つて汝を殺し此憤りを散せんとて兵を下知して城を攻んとす呂布之を見て曹丞相我を免し玉へ必ず頭を延て降るべしと云けれゞ陳宮色を變じて申けるゝ將軍ゝ曹操を如何ある者と思ひ玉ふぞ今日若降參せゞ卵と石に投るが如くあらん豈全き事を得んや呂布怒つて劍を拔て斬んとするを高順張遼推止め諫めて申けるゝ陳宮ゝ忠義の人あり言曾本心より出願くゞ君詳かにし玉へ呂布劍を捨て申々るゝ此汝に戲るゝあり願くゞ曹操を拒ぐの計と敢よ陳宮辭して計事あしといふに呂布再三請求む陳宮申けるゝ某が計事恐くゞ將軍用ひ玉ゝじと呂布が曰く汝邊の眞計我何ぞ用ひざらん陳宮申けるゝ曹操遠く來りて勢ひ必ず久しき事能ゝじ若將軍精兵を率して城外に陣と取玉ひて某に城を守らせ玉ゝゝ曹操來りて將軍を攻ゞ某兵を引て後に廻らん曹操又城を攻ゞ將軍又其後より擊玉へ此の如くある時ゝ十日より内に曹操兵粮ゑ事を欠て都を指て逃上らん此乃ち犄角の勢ひあり呂布喜んで申しけるゝ此滅に其計あり早く兵と調んとて自ら武具と用意しける時に塞氣甚ゝだしふして側るる人曾綿衣を被る女房嚴氏呂布が衣服を採て問て申々るゝ君今何くへとて出玉ふぞ呂布が曰く陳宮我に犄角の計を敎て城を出て陣と取し嚴氏申々るゝ昔曹操重く陳宮を用ひて我子の如くしされども彼遠に捨て君に事ふ君今陳宮と用ひ玉ふ事曹操ゑ及ゞず然るに此城を彼に任せて妻子をも顧みず一人城と出玉ふの若一旦變あらゞ妾如何して君ゑ逢事を得ん呂布申けるゝ夫人の心宜しく事を料ひ玉へ我必ず從ふべしとて兎角して三日の間出ざりしかゞ陳宮見えて申けるゝ曹操が大軍已に勢ひを張て四面より攻來る若早く出玉ゝざる時ゝ後すべき樣なかるべし呂布が曰く我能思案を運らすゑ遠く出るゝ堅く守るゑ如ず陳宮又申けるゝ近頃曹操都ゑり驛しく兵粮を運送せしむ將軍兵と引て其路を截塞ぎ玉へ是曹操が寫ゑゝ大ひある毒なり呂布が曰く此計事極めて好我必ず行んとて内に入て又嚴氏に申けるゝ今曹操兵粮と運ぶ我行て之と擊ん暫く心と寛ふして我還るを待玉

呂布女を殺して奮戰す

へ嚴氏之と聞て涙に咽んで申けるゝ君若城と出玉ゝゝ陳宮と高順と定めて城を守らん我元より二人の間不和にして常に爭ふ色ある事と知り君若外に出玉ゝゝ二人事を起さん事明白あり此城萬一失わらば君何處へか身を置玉ふべき願くば能察し玉へ妾昔長安あて君に汞られ幸ひよ麗舒が情よりて身を藏し再び君に逢事を得たり今又妾を願玉ゝぬかとて聲と放つて泣ければ呂布情に悲され心の内憂ひ悶へ貂蟬を召て此事を語るに貂蟬申けるゝ君重き御身と輕んじて必ず外に出玉ふあ片時も別れて妾雖をか願んと嘆きければ呂布申けるゝ汝憂ふる事勿れ我此戟と赤兎の馬とある内ゝ天下の人誰か近付事を得んとて陳宮を召て都より兵糧と運ぶと沙汰そるゝ曹詐りあり曹操ゝ計事多き者なるに因て我を引出さん爲に右する者あり我敢て輕々しくゝ出ずと云ければ陳宮外あ出て長嘆し我等皆死して身を葬の地も無るべしとぞ申ける呂布日夜外に出ず只嚴氏貂蟬を守りて酒を飲居たりければ陳宮が手に順ふ許汜王楷といふ者二人來りて見え事を求む呂布對面して何ぞ敵を退くるの計もやあると問る許汜申しけるゝ袁術淮南ゝ在て威勢甚だ盛んなり將軍さきに息女を送りて婚姻を爲んと約し玉へり何ぞ使を馳て救ひを求べ玉ゝざる若救ひを得て内外より攻ゝ曹操必ず退くべし呂布此儀實もと喜び急に書翰を調へて乃ち二人と使とす許汜申けるゝ某二人君の命を受と雖も容易にゝ出難し一軍道を引て圍を破り我等を扶け出べ人あくてゝ中々叶ふまじ呂布乃ち張遼郝萌二人あ各五百餘騎を付て淮南の境まで送れとて其夜の二更に張遼前に備へ郝萌後に備へて門を排いて突出し直ちに玄德の陣を蹂通つゝ己に淮南の境に來り夜深て敵も曾知ず応安しとて郝萌ゝ五百餘騎にて許汜王楷と淮南に進み張遼ゝ引別れ五百餘騎ゝて本の路より城へ回らんとするに關羽一軍を引て路を横切しかば互ひに眄盼の心ありて未だ戰ゝざる所に城の中より高順侯成打て出て張遼を救ひ回る許汜王楷ゝ袴巷に行て

袁術ゝ見え再拜して呂布が書簡と獻つるに袁術申けるゝ向あ我使と斬て交を絶たりしが今又何の爲ゝ此の如くある許汜申けるゝ向に呂布誤りて曹操が計に落され今頻りに後悔す大王願くば察し玉へ袁術申けるゝ汝等今敵に攻られて身の切あるを憂ひ詐りて女を送らんと云て我救ひを求めん爲なり我何ぞ輕々しく救ゝん許汜又申けるゝ今若救ひ玉ゝずんば呂布必ず敗ぶん呂布敗れば大王も全き事能ふまじ袁術申けるゝ呂布ゝ反覆常あらざる者なり早く女を送り來らば我其後に國中の兵を起して救ふべし許汜王楷さいゝゝ女を送りて再び來らん必ず救ひの勢を出し玉へと約して郝萌と共に下邳へ回らん事を議するあ日の内ゝ敵の用心ありて通り難からん夜に入て我等ゝ先に進まん郝萌ハ跡なる敵を防ぎ玉へとて密に敵の樣を窺ひ夜半の頃馬と飛して馳通りければ張飛何者ぞ夜深て大勢馬を早むると云て一軍を引て苞出路と遮りて散々に戰ひ只一合にして郝萌を生捕けり許汜王楷ゝ此間に因と突て城下に到りければ内より門を開ひて扶け入しむ張飛自ら郝萌と綁りて本陳に回りければ玄德拷問して急き曹操に見え呂布が袁術に救ひを求るよしを告玉ふ曹操されば之程昱が云しあ遼ゝずとて郝萌が首を刎させ法を出して申けるゝ若呂布と取透し其外手下の者一人あても通したる者あらば必ず軍法に處べしとて晝夜眠る事あく陣々と堅く守らしむ玄德諸大將を集めて我今此路を守りて豫に淮南の正路あれば呂布必らず此を通るべし萬一失わる時ゝ王法ゝ無し親みあ〳〵能慎め我も今より日夜甲を卸まじきと云玉ふに張飛申けるゝ我已に大將郝萌を生取たれども何の恩賞にも預らず曹操が下知ゝ戲れ事にわらずや玄德の曰く爭でかさる事有ん曹操數十萬の大軍を流て若法令を正さずんば何を以てか人と服せん汝必ず怠る事勿れとて手配を定べて用心し玉ふ去程に許汜王楷城中ゝ回りて呂布に見え袁術疑を成て更に許容せず先息女を送り來らば其後に救ゝんと約す速かゝ遣し玉へと云けれ

ば呂布申けるゝ今此圍の中に如何して女を送らん許汜王楷申けるゝ將軍自ら出玉いずんば中々叶ふまじ今日ハ凶神の辰に當れり城を出るに不吉なり明日ハ吉日あてゝ戌衰の時刻と待て出玉へ呂布之に從ひ張遼侯成と召て申けるゝ明夜我女を淮南へ遣す汝等二人三千餘騎と率し車を用意して從ひ來れ我自ら歐の囲と突て二百里ばかり送り出汝二人を附て淮南へ行しひべきぞとて已に時刻に成ぬれば女を綿に包みて呂布自ら脊に負ひ其上に甲を被せて赤兎馬に乘手ゑ戟を執て二更の頃月少し明なりけるば城門と開き自ら眞先ゑ進み張遼侯成を後備として玄德の陣を蹙通るゑ鼓の聲地と動かし關羽が一軍路を攔る呂布十合餘り戰ひ横さまゑ突て通らんとするに又張飛が一軍攻來る呂布ハ戰ひを好まず隙を窺つて走らんとする所に玄德の勢四方より起り入乱れて散々に戰ふ呂布勇あり と雖も脊に女を負たれば快よく働き得ず萬一傷を被らん事を恐れて囲みを破り得ざる所に後より徐晃許褚を先として曹操が大軍殺倒し矢を放す事雨よりも繁く呂布を遶すあと疊々に呼ハりければ遂に一人も通る事能ハずして空しく下邳の城に回り上下氣を墮して勇める體勢もあし呂布ハ心の内悶へ苦みて日夜酒を飲てゞ居たりける曹操ハ城を囲んで已に六十日に餘れども城の内更に驅りたる氣色あければ心の内變からざる所に早馬來りて河内の張揚元より呂布と好ありて此城の後攻をせんと企しに手下の大將揚醜といふ者心替りして張揚を殺せり珪固といふ者之を怒つて又揚醜を誅し兵を引て大山へ落行たりと告ゞれば曹操驚き其珪固を生て置まじとて大將史渙を遣ハし追付て討殺さし先手下の大將と召て申々るゝ我此城を囲んで二月に餘れども城中更に弱らず北に西涼の憂あり東ゑ劉表張繡が禍ひあり我心片時も穩あらず今張揚事と起して心腹の患を爲んとせしに幸ひにして自滅せり此城急々に落べきに有ねば打捨て都に回らんハ如何と問に荀攸諫めて申けるゝ甚だ然るべからず某よく思ふに呂布勇あれども計事あし今大ひに敗れて氣と落し力を失ふ其三軍ハ大將を以て主とす大將若氣を墮す時ハ諸軍の心爭でゝ亂ハん陳宮ハ計事あれども甚だ遲し今呂布が氣力の調ハず陳宮が計の決せざるに乘て火急に攻る程あらば一事に城を破るべし郭嘉進み出て曰く某一の計事あり御方の利二十萬の勢に比すべし呂布勇ありとも爭でか逃れん苟或傍らより笑つて申けるゝ泝水と泗水とを塞かけるにてゝあさか郭嘉曰く實に然り曹操隈あく喜び人夫一萬を遣んで泝水泗水の流と引き大軍と皆高き處に移さしむ城中の者ども或夜俄かに物騒がしかりければコハ如何にと驚く所に洪水壞に溢れて夥ゝく城中へ入々れば急に此由を告るゑ呂布申けるゝ我赤兎の名馬あり水を渡る事平地の如し何の怕れか有んとて只明暮酒を飲で居たりしが或時鏡を開き見て驚いて申けるゝ我酒色を過して身体大ひに衰へさり今より後ハ堅く戒むべし城中の者共少しにても酒を飲もの有ば必ず首を刎て戒とせん堅く禁酒の法と守れとゞ觸たりける元より大將侯成馬十五匹あり馬飼共密に寄合ことゝく盜出て玄德に献り降參せんとて引て出けるを侯成聞付趕かゝて斬殺し馬を取返しければ諸大將皆相賀して集り酒五六斛猪十四五を用意して祝ひを爲んと志けるが侯成自ら酒五瓶と猪一匹とを呂布が前に携へ行將軍の虎威に倚て馬盜人を追付て取返しハべ諸大將皆賀を延此故に少しの酒と用意し猪と囓て一笑とあす先將軍に進めて寸志を表すと云ければ呂布勃然として怒つて申けるゝ我禁酒の法出して堅く戒る所に汝酒を用意して諸人を集るゝ志を結んで我を殺さん爲かとて引出して斬し先んとゝ高順等ことゝく嘆れて一命を乞ければ呂布呀と嚙んで申けるゝ法令を犯せるの罪斬でハ叶ふべからずと雖も汝等が嘆きに免じて百杖打ん諸大將霜哀んで乞ければ五十杖打て免しけれども侯成が脊は血走りて花楓の如し呂布ハ怒りの氣猶已ず酒も猪も盡く弃させしかば諸大將皆安からず思ひけり宋憲と魏續と二人打連て

侯成が陣に行て事の様を問に侯成涙を流して申けるゝ今日若は邊遠の救ひに非ずんゞ我必ず殺さるべし宋憲申けるゝ呂布猥りに女房を重んじ大將を弃て如くゝ輕んず魏續申けるゝ曹操が大軍四面と囲み洪水堵を涵す我等討死すべき様もあし宋憲が曰く此處にて犬死せんより東の關門ばかり幸ひ水もあけれゞ倡や呂布を撤て何方へう落行ん魏續猶然として申けるゝ何ぞ落行といふ事あらん呂布を生取て曹操に降らん侯成申けるゝ此義尤も然るべし我馬故よ浩る貴を受たり呂布が顧みとするゝ赤兎馬あれゞ我先此馬を盗んで曹操に献り計を定先て攻破るべし陳邊二人ゝ跡に殘りて呂布を生取玉へとて夜深て底を窺ふに番の者共靠く寐入けれゞ躍て赤兎馬を引て打乗東の門より走り出るに魏續と宋憲と送り出して馬盗人よと呼ゝり詐りて追かくる体をなす侯成ゝ曹操ゝ見えて赤兎馬を献り右の趣きを語りて宋憲魏續等が内應の事を語り城の上へ白旗を立るを合圖に呂布を生取て門を開ゝん其時を違へず急に攻入玉へと云けれゞ曹操限あく喜び檄文を書て城中へ射入ける其文に曰く

今明詔を奉して呂布と征伐を加大軍を流拒ぶる者有ゞ滿門誅滅せん如城内上將校より下庶民に至る迄呂布が首を献せゝ重く官賞を加ん大將軍曹　押字

次の日の曙に城外の寄手數十萬一度に金を鳴し鼓を打て喊の聲を揚天を動し地と震ふて四方より攻上りけれゞ呂布大ひに驚き自ら走り廻りて口々を堅く守らせ戟を鋒して打入敵を支へ戦ふ時ゝ合圖を乖かず城の上に白き旗を指擧たれゞ曹操スハヤ約束の旗を出したるゝ彌急に攻よとて喚き叫んで競ひ進む飛矢ゝ雨の如く逆ゝる鉄砲ゝ雹の如し已に日中まで餘りに烈しく攻たれゞ雨方の討死上が上に重りて俄かに山を築き上たり寄手の勢少し引退きしかゞ呂布戦ひ疲れて椅子の上に睡り居たれば兼ての約束あれゞ宋憲走り來り左右の人と追退けて先呂布が戟を奪ふ魏續心得たりとて押へて呂布を縛りけれゞ呂布ゝ如何にと驚き寄や者共と呼ゝるに宋憲が手下の勢駆しく馳來つて少とも呂布を働さず魏續矢倉の上より白旗を執て招ゞゞ曹操が大軍一度よ來る魏續大貴わげて己に呂布を生取たり盛く入と呼ゝれども夏侯淵若詐りの計もやあらんとて忍疑つて輕々しくゝ進まず宋憲樓の上より呂布が戟を投出して城門を開きけれゞ大軍一齊に乱れ入る城内の兵周章騒ぎて大半降人に賞けれゞ高順と張遼とゝ西の城戸洪水深くして出べ兒樣なく盛く生捉をけり陳宮ゝ南の門わ支へて戦ひるが徐晃わ出合て擒よせらる曹操樓門に上りて御方の勢に法と出して人民を安んじ玄德を請じて傍らよ座せしめ一千人の精兵を撰ゝして呂布を進出さしむるに長一丈の男を餘りよ強く縛りたれゞ團々として毬の如し呂布叫んで繩わまりわ急あり少し寛せよと云けれゞ曹操申けるは虎を縛るに急にせでゝ叶ふまじ呂布が曰く我聞くゞ一言を伸て死ん曹操少し寛めんと云に主君王必進を出て申けるゝ呂布ゝ尊常の者に非ず況ん

や其手下の勢曹此にゐり必ず寛ふし玉ふべからず曹操實もとて呂布に向ひて申けるゝ我寛めんと雖も主簿更に從いずとて降參の者を召て一々對面するに呂布密かに侯成魏續が傍らに在を見て申けるゝ我常に汝等を用る事薄からず何とて右情あきぞと恨えけれゞ宋憲冷笑て汝妄りに女房の言を用ひて大將を芥の如くす何ぞ薄からずと云んと申ける時ゐ兵者高順を縛りて來りけれゞ曹操我に降らんやと問に首を低て答へざりしかゞ了に引出して誅せしむ其次に陳宮を引出しけれゞ曹操申けるゝ御邊相別れて幾歲なきや陳宮が曰く汝が忠根の正しからざるを知て我先に汝を捨たり曹操が曰く我を正しからずとせゞ汝何ぞ迎臣の呂布を助けたる陳宮申けるゝ呂布ゝ計あき者あれ共汝が詐り多くして人を欺き奸雄にして上を犯すが如き忠なし曹操申けるゝ陳ゝ遠ゝ自ら智謀と稱む今生捉れて忠何如陳宮傍らある呂布と指さして申けるゝ但此人我計事を用ひず若我計事を用ひゞ今日何ぞ此の如くあらん曹操笑つて申けるゝ今此邊の身如何せんと思へる陳宮申けるゝ臣として忠あらず子として孝あらず惟速かに死せん事を思ふ曹操が曰く汝邊老母あり此を如何せん陳宮が曰く我聞孝を以て天下を治る者ゝ人の親を殺さずと老母の存亡將軍の忠にあり曹操が曰く汝邊妻子あり此を如何せん陳宮が曰く我聞仁政を天下に施す者ゝ人の祀と絶ずと妻子の存亡も將軍の忠にあり曹操留戀の心起りて殺すゐ忍びざる氣色ありけれゞ陳宮申けるゝ願くゞ我速に誅を被り軍法を明かにせべしとて自ら起て樓を下りけれゞ率住れども住まらず曹操顧りに涙を流し送りて外に出て申けるゝ陳宮が老母妻子を豈く都に上せん我府中にて苦に養へ意る者ゞ必ず斬んと下知とあせゞ陳宮ゝ此を聞あかち跡を顧みず默然として首を延快よく斬れけれゞ諸人皆涙をぞ流しゐる曹操も其志を憐み棺槨を具へて都に送り妻子ゐ與へて厚く葬らしむ此間呂布哀んで玄德に告て申けるゝ公ゝ座上の客我ゝ階下の虜れなり願くゞ一言と以て此苦しみを寛ふし玉へ玄德打諾いて居玉ふに曹操其意を知て呂布を前に引出さしむ呂布申けるゝ亟相の患とし玉ふゝ某ゐ過ず今已に服しぬる上ゝ天下ゝ掌の内にあらん亟相步將として某と騎將とし玉ゝゃ四方を定る事豈道に足んや曹操笑つて玄德に申けるゝ今呂布と如何せんと思ひ玉ふぞ玄德對へて曰く昔彼が丁建陽と董卓とに仕へしを見玉ゝずや呂布之を聞て大ひに驚て玄德とハッタと睨んで此人ゝ何とて信あきぞと云ゐ曹操武士に命じて引出して首を縊よと下知すれゞ呂布引立られあがら跡と顧みて大耳の賊我轅門に戟を射たる恩を忘れたるかと呼ゝる時に大書楊て呂布匹夫何とて命を惜ひぞとて來る者あり曹操之と見るゐ武士共張遼を引て階下に居けれゞ急に下知を傳へて呂布と門外に縊殺させ首を斬て路頭ゐ曝し其後張遼と召て此人ゝ元來よき男つき惜き者を斬んよあと云けれゞ張遼申るゝ我兩度まで濮陽よて對面せしが汝何とて忘れさるぞ曹操笑つて汝我を知たるかと云に張遼齒を切りて惜むべし〳〵と呼ゝりけれゞ曹操何事ぞと問ゐ張遼申けるゝ汝を濮陽の城にて燒んとせし時惜むらくゞ火の大あらざる事を火若大あらゞ汝が如き國賊を燒殺さん曹操以ての外に怒り敗將何ぞ我を辱しむると云て自ら劒を拔て斬んとすると玄德と關羽急に押止めて申るゝ張遼ゝ心の正しき士あり願くゞ宥し玉へ曹操劍を地に捨笑つて申けるゝ我も亦よく張遼が忠義を知此故に戲るゝありして自ら繩を解衣服を與へられゞ張遼乃ち降參す曹操限りなく喜び仮令我妻子を殺したりとも何ぞ舊き讎を忘ゐ思ゝんとて中郎將關內侯に封ず臧霸ゝ兗州に在て此消息を聞我今ゝ誰にか使ん惟張遼と一處に成んとて手勢數百人と引て馳參りしかゞ曹操重く用ひけり臧霸又泰山よ引籠りたる者共の方へ使ひを遣ゝし利害を說て招きゐれゞ孫觀吳敦尹禮ゝ來りて降りしかども昌豨一人ゝ從ゝ走曹操乃ち臧霸を琅琊の相よ封し孫觀等に一々官を授けて青州徐州を守らせ呂布が妻子幷に貂蟬等を

皆都へ送り上せ貯へたる金銀を士卒に分ち與へ遂ゐ軍を収めて許昌へぞ回りける

○曹操許田に鹿を射る

曹操徐州を平定して下邳城と打立都を指て上るに人民蟻く香を焚て路の衢ゐ出迎へ劉玄德を此處の太守として留め玉へと願ひけれゞ曹操申けるゝ劉使君ゝ莫大の功勞あるに因て都に上りて天子に見え玉ふ後に又來り玉ふべきぞとて立出れゞ百姓頓首して喜びなり曹操馬を並べて玄德に申けるゝ御邊先都ゑ上り天子に見えて後再び來りて徐州を治め玉へ其間ゝ車騎將軍車冑を留めて權に徐州を守らしめんとて日を經て都に着しけれゞ諸軍勞ゑ恩賞を與へて重く持成丞相府の左を玄德の旅館にしつらひ次の日相伴ふて朝廷に出玄德朝服を具へて地下ゐ拜伏せられけれゞ帝勅して殿上ゑ召る曹操其功勞ある由を奏しけれゞ帝玄德の先祖ゝ如何ある者ぞと勅問あるに玄德覺へず涙を流さをけれゞ帝怪しみて其故を問せ玉ふ玄德謹んで奏し今勅を承ゝりて覺へず感傷の意を生ず臣が先祖ゝ中山靖王の後裔景帝の玄孫劉雄が孫劉弘が子あり先祖劉貞涿鹿縣陸城亭侯ゑ封せらるしより家緑流落して臣に至りて先祖と辱しむ此故ゐ涙を流しゝと申されけれゞ帝打歎かせ玉ひ扨ゝ漢室の一族あり家の世譜を取來るとて宗正卿ゐ命じて前ゐ遣んで讀せらるゝに曰く

漢景帝十四子と生む第七子乃ち中山靖王勝々陸城亭侯劉貞を生む貞沛侯劉昂を生む昂漳侯劉縣と生む縣沂水侯劉戀と生む戀歙陽侯劉英を生む英愛國侯劉建を生む建廣陵公劉哀と生む哀膠水侯劉憲を生む憲胆邑侯劉舒を生む舒邾陽侯劉誼を生む誼原鹿侯劉必を生む必潁川侯劉建を生む建豐鄉侯劉不疑を生む不疑濟川侯劉惠を生む惠東郡范令劉雄を生む雄劉弘を生む弘仕へず劉備乃ち劉弘が子也

帝聞し食れ涙乃ち朕が皇叔ありと宜ひ涙を流して偏殿に請じ叔姪の禮と爲て酒宴を賜ひ涙心の内ゝ今曹操威を震つて天下を奪ゝんとする計事あり朕浩る英雄の叔父を得たるゝ天の助成と思召て曹操然るべく官を定めよと宜ひなれゞ曹操承ゝりて左將軍宜城帝侯に封ず玄德恩を謝して共ゑ朝を退出せられければ是よりして劉皇叔とぞ申ける曹操已ゐ相府に回りけれゞ荀或を初めとして文武の大將齊しく來りて申けるゝ今日天子玄德を尊んで叔父とし玉ふ恐らくゞ丞相の害あらん曹操が曰く我玄德と親しむ事兄弟の如し何とて害を爲ん劉辟申けるゝ某よく玄德を見るゑ世の英雄にして久く人の下に居者に非ず常には用心あくてゝ叶ゑじ曹操打笑ひ好も亦変る事三十年惡きも亦変る事三十年好も惡きも我心ゑ主張ありと此より玄德と彌相親み出る時ゝ車を共にし坐る時ゝ席を共にす或日程昱來りて天下の事を論じ今呂布滅びて四海震動す覇圧の道と行ふべきかと云けれゞ曹操申けるゝ未た行ふべからず朝廷に倘股肱の奮臣多し輕々しくせゞ害と生せん我天子を許田の獵に請ぜて諸人の氣色を窺ひ見べとして犬鷹を用意して兵を城外に調へ自ら宮中ゐ入て許田の獵を催すべしと奏しけれゞ帝宜ひけるゝ田獵ゝ聖人の正き道ゑ非ず朕此故ゐ元より好まず曹操申けるゝ古の帝王春ゝ蒐し夏ゝ苗し秋ゝ獮し冬ゝ狩し四時郊に出て武を天下に示し玉へり況んや今四海大ひに乱れて互ひに戰ひ爭ふ事をあそ若出て獵をし玉ふ時ゝ其利四ゐり陛下常に深宮の中にゐ座ありて神力疲病す今弓馬の間ゑ馳騁し玉ふ時ゝ神氣を爽にして身快らん一ゐり試を耀かし風を揚て四方に示す二ゐり軍兵ゝ閑あれゞ困す困する時ゝ疾を生ず奔走して遇する事なし三ゐり天子に及び公卿までも弓射事を習ゝずといふ事あし四ゐり臣已に用意せり速かに御出あるべしと奏し申せゞ帝已を得して雕弓金鈚箭を携へ已に逍遙馬ゑ召る玄德を伴ひ行べしと詔ありけれゞ玄德乃ち關羽張飛と弓矢を揮み武具を執て數十騎にて相從ふ見物の貴賤羣集してあれこそ劉皇叔よ兵の出立實も爽ありとぞ申ける曹操ゝ瓜黄飛電と云る

名馬の太く逞しきに乗て十萬餘騎の精兵を従へ二百里を打圍ませて兼ての思案あれバ自ら天子の御後に沿手下の大將を華やかに出立せ武具を執て前後左右よ簇擁せしむ此よ依て朝廷の百官ハ帝の御前に近付こと能わず曹操の跡に引下りける天子ハ雕弓金鉞箭とゞ手に携へ其餘ハ箭よ壺く名字と聞す已に許田に到りて玄德とゞ前に召れ朕が今日の獵い皇叔を慰ん爲ぞと宣ム所に草の中より兎を追出せり帝アレ射取と宣へバ玄德馬を馳て丁と射る其矢正中に當りて兎還よ僵れけれバ帝喜りあく感歎わりてゞ馬山の坡に到りける時に荆棘の中より鹿一ッ走り出けれバ帝渉手づから三度まで射玉へとも曾中らず傍らある曹操に卿之を射留よと宣へバ曹操天子の雕弓金箭を取れハ忽と射る鹿の背に矢當りて小篠の上に臥たりける衆の百官下將校に至るまで金箭を見く帝の射させ玉ると思しかゝ壺く走り集りて同音に萬歳を呼ぶ時に曹操馬を飛て馳來り帝の御前に立塞りて我こそ射たれと云て萬歳

を迎へけれバ諸人皆色と失ひて眞を醜す玄德の後ゐありける關羽心怒つて眼を張り眉を揚刀を提げて出んとしけるを玄德之を止めん爲に手を動うして目加せし玉へバ關羽怒を押へて出ざりけり曹操時に玄德と顧をけれバ玄德急に賀して亟相の神矢世に及ぶ者わらじと申さる曹操打笑つて此曾天子の洪福なりと云て了に雕弓金箭を己れが腰に挾んで後まで天子に返し奉らざりしかバ朝廷の老臣嘆かずといふ者おかりけり其より酒宴數刻ゐ及んで帝還御おりけれハ各皆都に回る玄德密に關羽を召て申しけるハ今日何とて驚しく怒を起したるぞと問玉へハ關羽申けるハ君と狄き上を僭すを見てハ某暫くも忍び難し何故に目加せして停め玉ひしぞ玄德の曰く鼠に投打するに器を忌むハ假令鼠を殺し得ても器の損せん事を畏るゝ故おり曹操奸計を生じ獵よ事寄て已が威勢の程を見ん爲に帝と常に馬を双べ四方に手下の大將ど量て朝廷の臣と一人も前に近付ず簒逆の心已に露れゝ我急に汝と停た

るハ曹操が手下に十萬の精兵あり假令曹操を斬たりとも手下の大將共必ら我等を殺さん事を畏れており然る時ハ事成ざるのみならず却つて天子の身に禍ひを惹出さんと云玉へバ關羽長嘆して今日奸雄の曹賊を殺さずんバ後にゞ覽しへ必定天下の禍ひと成へしとぞ申しける

○董承密かに衣帶の詔を受く

帝ハ獵場より還幸おりて其夜御涙を押へて密ゐ伏皇后に告て宣ひなるハ哀ひゐゐ朕位に即てより猶臣打續いて世に出初め董卓が禍ひを受て後に李傕郭汜が亂に遭一日片時も安き事おかりしに曹操と得て心喜ひ是ぞ天下を平定して朕が股肱とも成ぬべき者ゐりと頼たるゐ案の外よ國の政事を擅にし常に奸計を逞して天下を奪いんとするの巧あり朕殿上に在て針の氈よ坐するが如し今日獵場よて鹿を射取朕が前に立塞りて萬歳を呼し心ハ本逆の計を人に隠さゞ已れが威勢を試えん爲おり朕夫婦又如何おる憂目に罹て何くゐ死んも知難しとて伏嘶〳〵泣へ玉へバ

伏皇后宣ひけるゝ朝廷の百官皆四百餘年漢の祿を食やして今一人も忠を盡して國の禍ひを救んと思ふ者なさそ哀しけれとて共に哭き玉ふ時に一人外より來り無用なるに何を哭き玉ふぞ臣願くゞ天下の害を除んといふ者わり帝驚いて見玉へゞ伏皇后の父に伏完といふ人あり乃ち淨心を發んじ皇丈朕が腹中の事を知るかと宣へゞ伏完申けるゝ許田に鹿を射る事雖ゝ齒を切らざらん曹操が天下を奪ふの巧ゝ昔の趙高に過たり帝宣ひけるゝ朝廷の内盡く曹操が耳目なり誰ゝ今忠を盡して此禍ひを除く者あらん伏完申けるゝ若陛下の親き國戚ゝ非んゞ此大事を謀るべからず臣ゝ年衰へて威名もなし幸ひに車騎將軍董承ゝ權よく人を服して志實に忠を存ず此人を御顧あらゞ必ず能功を成ん帝宣ひけるゝ董承ゝ昔朕を西都に救ふて李催郭汜が難と遇ーむ其志の程そ朕もよく知り進ゝ召て事を議せん伏完申けるゝ陛下ゝ近侍する者も曹操が內應の者どもあり萬一此事洩る時ゝ却て大ひなる禍ひを惹出さん臣よく愚案を運らしゝに尊常にてゝ叶ふまじ董承を召て何とおくほゝ衣一領玉帶一條を賜ゝ帶の裏に密ゝ詔と縫入て置玉いゝ董承必ず家に回りて開き見るべし然る時ゝ元より忠義の志深きに彼が女今陛下の貴妃なれゞ旁默止難く晝夜に計を運らすべし帝此議誠ゝ然べしとて密に人目を忍て御指と咬やぶり血を瀝て詔を書伏皇后に命じて玉帶の裏に紫の錦と重て縫こめさせ自ら錦の袍衣と彼玉帶とを召れ勅と下て董承を招き玉ふ董承急き參內しけれゞ帝近く召て宣ひけるゝ朕昨夜伏皇后と共ゝ長愛より遠たる事と物語して李催郭汜に迫れし苦を傳身の忠を盡して救ゝれし功勞を思ひ出し覺へず涙を流せしがほゝ身の大功を今まで忍實もおくて捨置たる事を飾み今よりゝ朕が左右を離れしむべからずとて頻りに召寄たるぞやと宣へゞ董承頓首して申しけるゝ臣何の功ありて陛下の左右ゝ侍する事を得ん帝宣ひけるゝ此衣帶一條を賜ゝ密ゝ詔を縫入て置玉いゝ董承ゝ家に回りて開き見よ

家歷代の祖宗を拜し壁ゝ掛たる畫像を御覺あるゝ中間に漢の高祖を畫いて二十四代の帝を兩邊に列ね掛たりゝれゞ董承ゝ向つて朕が先祖ゝ如何なる人ぞと問玉ふに董承申なるゝ乃ち陛下の帝業を開き創先玉ひし漢の高祖皇帝なり何故御尋ねゝぞ帝宣ひけるゝ朕が先祖何れより身を起し此基業と開き玉ひしぞ卿試みゝ其由來を伸よ董承打驚いて陛下聊か臣に戲れ玉ふか聖祖の事如何ぞ知し食れぬ事のゝべきと申けれゞ帝宣ひけるゝ朕故ありて卿に問ふ辭する事なくして速かに說け董承申けるゝ高祖皇帝泗上の亭の長より身を起し三尺の劍を提て白蛇を茫碭山に斬義兵を揚て四海ゝ縱橫し三年ゝ秦を亡し五年に楚を亡し大漢四百年の天下を開いて萬世れ基ひを立玉へり帝嗟いて宣ひけるゝ祖父此の如く比英雄あれども子孫にゝ朕が如く懦弱なる者あり此程よも劣る者か兩旁に立たるゝ如何なる人ぞ董承申けるゝ上ゝ留侯張良下ゝ鄒侯蕭何あり帝宣ひけるゝ此二人如何なる功ありて側ゝ立ぞ董承が曰く高祖基業を開き玉ふゝ皆此二人の功あり張良ゝ運籌於惟幄之中一決勝於千里之外蕭何ゝ國家と鎭め百姓を懷け兵糧を通て不足なる事なし高祖常ゝ其德を稱し玉り此に依て側を離れず帝嘆じて眞ゝ社稷の臣ありと宣ひく折境あたりに侍る人のおかりしかゞ密ゝ董承か前に寄て卿今より朕が側に立て張良蕭何が如くあれと宣ふ董承頓首して申けるゝ臣何の功ありてか此の如なる事と得ん帝宣ひけるゝ先年卿が長安にて難を救ひし功を思ひて朕片時も忘るゝ事なし何と以てか其功を顯す事を得ん卿此衣服と玉帶とを着て朕が左右を離るゝ事なかれとて親らほゝ衣を卸せ玉ひ玉帶を副て下し賜りけれゞ董承再拜して之を受け暫く有て退出す早此事を曹操ゝ告る者ありて帝今董承と功臣閣へ上り玉ふと云けれゞ曹操速かゝ馳來る董承も已に宮門まで出けるが向ふより曹操が慌たしく來たると見て急に避べき路なけれゞ怖れ戰いて門の傍に立居たり曹操怪しみ問て申なるゝ國舅何くへ行玉ふぞ董

承答へて曰く適に天子の召に應じ朝に入て見え奉りたれば錦の御衣と玉帶とを下し賜へり今退いて私宅に回る曹操が曰く夫れ今何の故ありて賜ふたるぞ董承が曰く小人先年長安より還幸の路次に參り合賊徒を防ぎし功あると以て之を賞して下し賜へり曹操が曰く脱で我に御見せいへ董承心に思々るゝ向に帝の御氣色いかさま此中に密詔あどや入置せ玉ふらんと危み怕れて卸し兼たるを曹操下知してあれ解來れとて是非なく帶を奪ひ取よく〳〵打見て笑つて申けるゝ扨々之ゝよき玉かな其ほ衣をも見せ玉へ董承背に汗を流し已を得ずして遂に卸て渡しければ曹操よく内外を拠り見て日の影を受て詳かに覩ひ那後我身の上に重ね被て玉帶を繫左右の者に向つて如何よ我に似合たるかといふ皆能御長よ應じ似合たりと答ければ曹操打笑つて申けるゝ此ゝ我長よよく應じたれば直ちに申受べし別に又此回禮を致さん董承が曰く君の恩賜輕々しくもべからず亟相いかゐれば由あく所望し玉へるぞ曹操が曰くほ邊此中に計畧あるよていゝゝずや董承容を改めて申けるゝ某何ぞさる事あらん亟相若其ほ疑ひにていゝゝほ衣も玉帶も共に献るべし曹操が曰くほ邊適々君の賜を受我何ぞ漫りに取ん只聊の戯れなりとて返ければ董承虎口を逃れたる心地して急ぎ私宅に回りほ衣を見れば共一物もあし向ゐ天子顧りゐ我を顧みてほ手を擧て指さし玉しゝ何樣事の子細あらんと思ひければ其夜ゝ眠る事能ゝず案じ煩ふて又玉帶を見るに面ゝ玲瓏たる白玉小龍の花を穿ち摸樣を爲て裏にゝ紫の錦を覆ねとせり卓の上に之を展て時うつる迄守り居けるが覺へず心疲れて睡ける折境傍なる燈火風よ吹れて丁子頭を落し玉帶に燒付て薫りければ打驚きて夢さめ急ゐ玉帶を取て見るに裏に重ねたる紫の錦すこし破れて素き絹露れたり此に彌心付て覩ひみれば幽に血の色あり切開いて出せば則ち素き絹よ血を以て書たる密詔あり其詔ゐ曰く

朕聞く人倫の大ひなる父子を先と爲す尊卑の殊ある君臣と重しと爲す近頃操賊閣門より出て佐輔の堦を濫叨して寶ゐ欺罔の罪有黨伍を結連して朝綱と敗壞を勅賞封罰皆朕か意に非す夙夜憂思して天下の危うらんとするを恐る鄉ゝ乃ち國の元老朕が至親高皇業を創むるの艱難を念ふべし忠義兩全の烈士を糾合せ姦黨を殄滅し社稷を復安して暴を未萌に除かば祖宗の幸甚あらん愴惶指を破り詔を書して鄉ゐ付す再四之を愼先負く事あらしむる事勿れ

建安四年春三月詔

董承見了りて涙を流し誠に一天の君として奸臣に惱され陞方ゐさよ己を召て何とぞ賴まんとゝ思食けれども事の洩ん事を怕れて様々よ沙心を盡されたる者なりとてほ痛いしく憐れに思ひければ寢食共に癒れて行坐安からず其詔を袖に入て書院ゐ立出再三開き誦ども施すべき計ゐし几の上に披き展て曹操と滅さん計事を思ひ煩ひ少し睡居たるに日頃睦しく交ゝる侍郎王子服といふ者案内もなく出來り直ちに書院に入たるに董承几に倚て睡り袖の下に素き絹を隱して微し文字の見へければ密に覩ひければ朕の字あり扨ゝ密詔ゐんど賜りゐると怪て靜よ取て懷よ藏め董承を喚起して好も睡り玉ふ人かゐと云ければ董承打驚いて詔書を尋ぬれども見へず瞻を冷し魂を失つて靈ひ戰きければ王子服申けるゝ沙邊ゝ曹操と殺さんと巧み玉ふか我此事と訴へん董承哀んで申けるゝ沙邊若訴人に出ば漢室此時に滅亡せん王子服が曰く是戯れなりほ必と安んじ玉へ我累代漢の恩と蒙りゐながら爭でか不義の行ひをせん翻くば一劈の力を扶け共に國賊と誅すべし董承が曰くほ邊果して我を助くるの心ゐ時ゝ天下の幸甚あり王子服申けるゝ密ゐる處に入て義狀を書三族を弄て忠を盡すを本とし天下の爲に賊を伐の計を成ん董承喜んで密室に入絹を取出して義狀を書き自ら名字と押ければ王子服も名字を書のせ將軍吳子蘭ゝ我と交を結ふ尊深くして忠義の心ある者ゐり此事と語らば必ず喜んで力を盡

さん董承申けるゝ朝中ゐも長水校尉种輔議郎吳碩二人猶
漢を思ふ心あり好謀もあらゞ此事を語るべしとて計事と
議するに暫くありて外より報じて种輔吳碩來り玉へりと
申す董承手を打て王子服に申るゝされば〻こそ此者共も
ほ獵より回りて曹操を疾むの心起り我に告んとて來れる
者あり是天の助あらんほ邊い先隱れ玉へとて屏風の陰に
隱し置自ら出迎へて書院に請じ坐定りて种輔申けるゝは
獵より回りて足下も定めて恨を含むの心あらん董承が曰
く恨ありても爲べき樣あし吳碩申けるゝ若力を合する者
あらゞ我留つて國の賊を誅せん种輔申けるゝ天下の爲に
害を除き命を失ふとも何ぞ惜まん時に屏風の後より王子
服走り出て申けるゝ汝等い曹丞相を殺さんと巧むか我必
ず訴人に出ん董承い証據に立玉へ种輔書き怒つて申ける
い忠臣い命を惜まず我假令死とも漢の鬼とありて賊を討
ん董承大にひ笑つて曰く我等先より此事と議し居たるに
二人來り玉ふを見て心と量らん爲ふ隱れたり是を見玉へ
とて天子の密詔を出しけゝば种輔吳碩披き見て共に涙を
流しける董承乃ち義狀と取出して二人の名字を書のせけ
ゝゞ王子服喜んで申けるゝ皆是に待いへ吳子蘭を召來
んとて走り來たりしが須臾にして伴ひ來る吳子蘭も義狀
に名字と記し共に部ある室に入酒と飲て計事を議するゝ
又外より西涼の太守馬騰來れりと報ず董承急き人を出し
て此間病に臥て見る事能いずと云せけれゞ馬騰怒つて申
るゝい我昨日東華門ゐて恩賜の法衣を披て出玉ふを見た
り何とて虛病して對面し玉いぬぞ我已ゐ本國に回らんと
す事の故ありて此に來れり然るに情あく見へ玉いぬこと
心得ぬと深く恨みけれゞ董承之を聞て已事と得ずして出
迎ふ馬騰内に入て申るゝ某い西蕃の守たるを以て今天
子に朝拜す本國に回る事近ゝにあり國員い天子の法外威
國の大老あるを以て謹んで來り禮する所に何故に輕んじ
て逐出さんとい し玉ひしぞ董承申けるゝ近頃病ゐ樂て速
かに出て迎へ奉つらず罪の大ひある事山海の如し馬騰申
けるゝ足下の面い春色を含みて病ありとい見へず董承
答ふべき樣あく默然として居たりけれゞ馬騰座を起て之
も柱石の才に非ずと云て回らんとす董承此一言を聞て再
拜して押止足下何を以て柱石の才ゐ非ず云玉ふぞと問に
馬騰申けるゝ許田の獵に鹿を射る事我恨み肺腑に徹れり
足下い乃ち天子のほ員何故に徒然として君を救ふ事を思
いず斯の如くゐて居玉ふぞ董承猶詐りあらん事を疑ひ長
嘆して申けるゝ曹丞相い世の棟梁我何ぞよく及ゞん馬騰
怒つて申けるゝ涉邊の心にい曹操を正しき人と思ひ玉ふ
か董承が曰く人の聞んも畏れあり聲と低くし玉へ馬騰馬
りて申けるゝ生と貪り死を怕るゝ者とい大事を議そべか
らずとて又起て出んとす董承言を殺ふして探り見るに果
して忠義の心詐りあく見へけれゞ書院に伴ひ行て低語け
るい我元來曹操を誅する計事を運らせども若や足下の詐
りて探り見ん爲ゐ來り玉ふかと危ぶめり決して忠義のほ
心あらゞ何しに獵し申べ死とて乃ち密詔を取出して見せ

馬騰董承を責る

けれバ馬騰齒咬をして申けるハ足下若内顧し玉ハ〻某ハ西涼の大軍を起して必ず都へ攻上るべしとて髮眥皆例さに竪上り感激して口中より血と流す董承同志の人々と召出して義狀を見せけれバ馬騰も名字を書のせ盟を爲て申けるハ今己に六人志を合す若十人に及ぶ時ハ事必ず成

覺せん董承が曰く朝廷の書臣を見るに忠義兼備りさる人ハ稀あり容易ゐ語らバ反つて禍ひの本と爲ん馬騰乃ち朝廷にて列座の駕行儀序の記錄を取寄一々點檢して語ふべき人を相議し漢室の宗族に至りて手を打て申けるハ此に

こそ究竟の人あれ此人だに語らハ〻事必ず謀ハん董承王子服等申けるハ誰人にてハゞ馬騰が曰く我思ふに豫州の劉史劉玄德を語らハ〻自餘の十人に優るべし董承が曰く玄德ハ漢室の皇叔なれとも今ハ曹操ゐ一眼して交の親さ

事兄弟の如し爭でが此事に與すべき馬騰申けるハ玄德の恐懼より曹操を敬さんとせる巧あり先日許田の獵に高泉と迎へし時關羽怒つて已に曹操ょ斬て苟らんとせしを玄

德目加せをして止められしもゑ關羽刀ゝ收めて出ざりさ是其心に殺ゞ事と思ハざるに非ず曹操が兵多く我力の足ざるを恐れてあり足下試みに語ひ玉へ吳碩申けるハ此事急ゐハ中々成難からず人々よく心に秘して重ねて又相議

らんとて董承ハ別れて回る董承ハ次の夜の暗紛れに密詔を書に嫌め忍んで玄德の館に行けれバ玄德驚き怪しみ聞迎へて引て小閣に入夜中忍んでの淫出ハ如何ある故ぞと問玉ふに董承申さるハ白晝に來らバ曹操が疑ハん事を恐

りて馬にも乘ずして密かに來れり玄德酒宴と勸めて持成玉ふに董承申さるハ先日許田の獵に關羽己に曹操を斬ん

とせしを足下急ゐ目加せして止め玉ひしハ如何ある故ぞ玄德色を失つて怖れ驚き此事何とて知玉へるぞと問ふ董承申けるハ他人肯て知ものゐし我ハ其側ゐ在て見る事を得たり玄德聽すべき樣あく我弟曹操が君を欺くを見て忍

び難くーて斬んとせしありと宜ふ董承聞て面を掩ふて哭きけれバ玄德問て曰く如如なる事ありて哭き玉ふぞ董

承が曰く漢の朝廷に若關羽程の心根持たる忠臣あらバ何ぞ太平ならざる事を患ひとせん玄德心の内ゐ是ハ曹操が我を操らん爲ゐ期ハ吉とる者ならんと思ひけれバ曹座相

よく國を治む何ぞ患ふる事有んと云玉ふに董承色を變して申けるハ涉過ハ天子の皇叔我此故ょ實を告ぐ何とて詐

りと思ひ玉ふぞ玄德の曰く我ハ詐りあらん事を恐れて歟るゝあり董承懷より密詔と取出して此を涉覽ハへと云けれバ玄德拔き見て悲憤して涙を流す董承申けるハ我ハ

かにもして此賊を伐んとするゐ一味同志する人多し義狀を書て堅く盟を致せりとて出しけれバ玄德之を見るに第一車騎將軍董承第二長水校尉种輯第三昭信將軍吳子蘭第四工部郎中王子服第五議郎吳碩第六西涼の太守馬騰と記

したれば諸公己に此の如き忠義の心あり我何ぞ犬馬の勞を竭せん密詔と賜りさる上ハ命と失ふとも惜ひ事ゐしと自ら義狀の奥ゐ左將軍劉備と記し此事ハ寛々と謀るべ

し經々しくして洩し玉ふなとて共に飲して五更の頃にハ

たり董承別れて家に回る

通俗三國志卷之八終

通俗三國志卷之九

○青梅酒を煮て英雄を論す

玄德ハ董承に勸られて密かに曹操を討の計事を謀されけるが其疑ひと避ん爲に常に自ら後園にて野菜を作り水を洒ぎ糞土を搬んで日を過し玉ふ關羽之を怪んで兄今ハ弓

馬の道に心を勵ず小人の業を學んで野菜と作つて日を送り玉ふハ如何ある故ぞと問に玄德打笑つて我深き心あり故事が知處ょ非ずと答へ玉ふ此に依て關羽ハ寒秋を觀戰ハ

馬に騎弓と射て日を送る一日關羽張飛二人外ゐ出て弓を射けれバ玄德自ら後園ょ水を洒ぎ居玉ふ處に許褚張遼二人十騎餘りを引て出來り曹丞相の命あり早く相府に出

玉へと云玄德心驚いて今何の用ありて召れハゞと問玉ふに許褚其故を知ずと申す彌心元なく思ひあがら急ぎ相府に參られけれバ曹操色を正して申けるハ御邊家ゐ在て

何の好事かある玄德其意を知ず驚き怕れて答ふる事能ハ

中面土色の如くありけれバ曹操其手を執て後園に出野菜を作つて樂しきかといふ玄德之を聞て初めて心を安んじ無事の日を過して冷閑を忘れん爲ありと答へ玉ふ曹操暗りなく打笑ひ我前に小梅の熟せるを見て去年張繡を征伐せし時途中に水あくして兵皆渴を苦しみけれバ我必ず一計を生じ向に梅の林あり早く行て之を取と云しに兵之を實ありと思ふて各に進ひ穩に口中に津を生じ渴を渴せざりし事を思ひ出し今小梅を採く賞翫せんとす況んや酒を煮て能熟せり御邊と共に小亭に會して樂ひべしと云ければ玄德聞るべしとて相從つて亭中ゑ到り青梅を山の如く盞に貯へ二人對坐して酒宴をなし半酣に到つて俄に雲起りて暴雨を催す傍なる人々あれ〳〵虛空に龍が昇りしと云ひければ曹操欄干に凭て遙かゑ望み玄德に問て申しける御邊變化の道理を知玉へるか玄德答へて曰く某未だ知ず曹操申しけるハ夫龍ハ能大に能小ゑ能昇り能隱る大なる時ハ霧を吐霧し興し江を翻し海を捲小なる時ハ頃を逢て身を惜み小利を見て命を輕んゼ是乃ち蟬蛇の類なり爭でか英雄たる事を得ん玄德の曰く荆州の劉表ハ威八州を鎭めて八俊と呼る英雄といふべきか曹操冷笑て申しなるハ劉表ハ酒色ゑ溺る何ぞ英雄たる事を得ん玄德の曰く臭の孫策ハ江東の領袖血氣正に剛し英雄と云べきか曹操笑て曰く孫策ハ父の名を藉實口の小兒なり爲んぞ云に足ん玄德の曰く益州の劉璋ハ英雄といふべきか曹操が曰く劉璋ハ門を守る犬なり安んぞ英雄たらん玄德の曰く張繡張魯韓遂が輩ハ如何曹操手と打て笑つて申しけるハ此等ハ皆碌々たる小人何ぞ云ゑ足ん玄德の曰く是より外に某が知たる人ハいかゞ曹操が曰く夫英雄ハ胸ゑ丸ひある志を懷き腹に五計を藏して宇宙を包括するの機天地を呑吐するの志あり玄德の曰く今誰か能此の如くなるらん曹操手と以て玄德を指さし又自ら我を指さして申けるハ今天下の英雄ハ唯御邊と我と二人ありと其言未だ了らざるゑ大雨サット降來りて雷の鳴こと天地を崩すが如くありしかば玄德慄ひ戰き手に持たる箸を取落さる曹操何を畏れ玉ふぞと問ゑ玄德答へて曰く聖人も迅雷風烈に必變と云り一震の威此の如し曹操申けるハ雷ハ乃ち天地の聲何ぞ驚き怕るゝ事あらん玄德の曰く我幼年より雷を怕れて身を戰すに所なきを恨ひ曹操之を聞詐りとハ夢にも知ず玄德を輕用の人ありと思ひ冷笑てゞ居たりける關羽張飛ハ城外に出て弓と射たりしが家に回りて玄德を尋ぬれバ張遼許褚相府に伴ひ去りと申すコハ如何にも驚きて急ぎ相府に馳來り後園に突て入バ番の者ども群り集りて押止んと聞きけるを蹴倒し直ちゑ小亭の前まで入けるが玄德と曹操と相對して酒を飲と見て外に立て內へ入ざりけれバ曹操之を見て問て申けるハ二人何ぞ此ゑ來れる關羽答へて某二人丞相の兄を招いで酒宴し玉ふ由を承り飯を辍して一笑を助けん爲に來りハ曹操其心を推して喝りあく笑ひ是ハ古の鴻門の會に非ず安んぞ項莊項伯を用ひんと云けれバ玄德も亦大ひゑ笑ひ玉ふ曹操左右

理と瓜を伏し介を壓し形を潛ひ升る時ハ宇宙の間ゑ飛揚し壓るゝ時ハ波濤の內に伏藏す龍ハ本陽物なり時に從つて變化す方に今春深て其時と得たり人ゑ相比すれバ龍養する時ハ九天ゑ昇り人志を得る時ハ四海に縱橫す此故に龍と世の英雄ゑ比す御邊ハ四方を經歷して必ず當世の英雄と知玉ハん何人とか思ひ玉へる試みに聞玉へ玄德の曰く我凡夫の眼を以て爲んぞ英雄を知ん曹操が曰く耐過な仕玉ひぞ胸中にハ定めて思ひ寄あらん玄德の曰く我丞相の恩顧と受て朝廷ゑ事ふとヤせども未だ英雄を知ず曹操申けるハ自ら知玉ハずハ定めて名を聞及び玉ふべし聞くバ世俗を以て論じ玉へ玄德の曰く淮南の袁術ハ兵糧く糧足り英雄といふべきか曹操笑つて申けるハ袁術ハ塚中の枯骨なり我必ゼ不日に生擒ん玄德の曰く河北の袁紹ハ四代三公に上りて門下に故吏多く今冀州ゑ虎踞して手下の大將計事を爲者數と知ず英雄と云べきか曹操笑つて曰く袁紹ハ色厲ふして膽薄し奸謀決する事あくして大事に

の人に命じて二樽の酒を送へと云けれバ關羽張飛拜謝して酒を飲酒休で別れて家に回る關羽申しけるハ某二人兄の讐出玉ふと聞て直事あらずと存し以ての外わ驚きたり玄德密かに箸を落したる事を語り玉ふに關羽張飛其事を聞らず玄德の曰く我野菜を作り雷を畏るゝ曹操と歎んゝ爲の體なり曹操ハ恐れし密かれバ日夜密に我と謀ハん君我野菜を作つて自ら黄土を撒び水を洗ぐ事を爲て武略の志あるを知バ必ず我を無用の人と思ふべし又箸を落したるハ我を指て天下の英雄といふ我未だ苦へざる處に俄に雷なりハためきしかバ大ひに恐るゝ体を爲て手に持ふる箸を落し曹操に我を輕しめ小兒の如く思ハしむ紛る時ハ我を害するの心なかるべしと語玉へバ關羽張飛其高明あるに覺す次の日曹操又玄德を招いで酒宴をなす處に關羽が回りてハと報じ來る曹操召寄問て申けるハ汝河北に行て袁紹が虚實を覗ひ來れるか關羽答へて曰く河北にも別ふ替りたる事あくハが北平の公孫瓚已に

袁紹に滅されたり玄德打驚きて申けるハ公孫瓚ハ我親き友あり何とて一旦に滅びたるぞ合戰の樣を詳に御語りハへ關羽が曰く公孫瓚數か度の戰ひに負て退いて冀州を守り城廓を築きて高死樓を造り易京樓と名付て三十萬斛の兵粮を貯へ軍勢の出入止時あかりしが或日一手の勢袁紹が大軍に囲まれけれハ城中の者ども打て出て御方を救ハんと云ふ公孫瓚怒つて申けるハ御方の勢僅かに敵わ囲まれたると若急に出て救ハゝ今より後ハ御方の兵命を棄て戰ふ者一人もわるまじ敵來る時ハ只救ひをのみ求むべし今仮令盡く討るゝとも出て救ふ事有べからずと云けれバ諸軍皆恨をを呑んで敵の大勢來るを見て大半門を開いて降人となる此に依て公孫瓚力衰へ黒山の張燕わ救ひを求先密に約を定先て救ひの勢火の手を揚バ城中よりも一度ハ打て出て操合せんとて書簡を認りけるに其使袁紹が伏勢わ生取れけり袁紹書簡を披き見て城外に火を揚救ひの勢の來る体をあしけれバ公孫瓚スハヤ合圍をするハ

打て出ようとてこと〳〵く出けるに伏勢四方より起りて散〳〵ハ戰ひしかバ公孫瓚殘り少あに討れて道々城中へ逃入其後袁紹地の底を堀て本陣へ潛り入火を付て内外より攻けれバ公孫瓚逃るべき路あく妻子を刺殺して其身も自害して滅びぬ袁紹降參の勢を併せて遠近こと〳〵く願ひ靡き長れずといふ者あし袁紹が弟の袁術ハ淮南に在て久しく皇帝と稱しけるが其傲莫大ふして軍民と恤まざりしゆゑ手下の者ども怨を含んで背く者多し此に依て皇帝の位に居ること能ハぜ兄袁紹が方へ使を馳て帝位を贈る袁紹も已に北平を攻取れバ心わ帝位を望み袁術が傳國の玉璽を求む袁術今玉璽を持て淮南と打すて河北に行て兄と一處に成んとす若二人力を併せバ由々しき大事にてハんん丞相遠に聞り玉へ時に玄德奮然として申されけるハ袁術若河北に行バ必ず徐州の路を通らん某願くバ一軍を引て馳向ひ半途にて討止ん曹操喜んで申けるハ御邊若行玉ふ時ハ我何をか患ひんや明日天子に奏聞と經て早々に

打立玉へ我朱靈路昭といふ二人の大將を相添五百の精兵を貸べしとて次の日相伴つて朝に出曹操の樣と奏して玄德遠に退き玉へ帝も御涙を浮べて悲り玉ふ玄德い家に回りて取ものも取敢ず軍馬を調へて將軍の印を腰につ々飛が如くゑ出玉へ車騎將軍董承此由を聞て十里亭まで追懸來り日比の約を忘れず常に曹操と誅するの計略を廻らし帝の宸襟を休め玉へといふ玄德の曰く御身よく〳〵慎を玉へ我此度都を出るい實い日頃の計を成ん爲あり必ず期に臨んでい書簡と驛て告申さん董承が曰く將軍必ず常に此事と思ふて勅命の重きを忘れ玉ふなとて涙を含んで別れければ玄德いよ〳〵路を急き玉ふ關羽張飛怪んで問て申げるい兄如何あれば箇程ゐ慌忙ひて都を出玉ふぞ玄德の曰く我い籠の中の鳥網の中の魚あり此度都を出るい魚の大海に入鳥の青天に上るが如し曹操い憂へを同ふすれども樂と同ふすべからず若一度心變せば我如何ある死を受んも知べからず關羽張飛是を聞て實もと心付けれと後陣の朱靈路昭と催促して夜を日ゐ繼て急ぎけり此時郭嘉が諸郡の巡檢ゐ出て回りけるが玄德兵を引て徐州へ赴きたりといふを聞て以ての外に驚き急ゐ曹操ゑ見えて申げるば丞相何とて玄德に大軍を授け玉ひし曹操が曰く袁術が河北へ行を半途にて討しめん爲あり程昱進み出て申げるい往日玄德を豫州の牧に封し玉ふ時某頻りに諫めしかども丞相遂に聞玉いず今日又兵を授け玉ふ是龍と大海ゐ放ち虎を深山に歸らしむるあり後に如何ともしがたからん郭嘉が曰く我心も此の如し玄德素より雄才あり民の望よく歸服す關羽張飛萬人の敵あり久しく人の下に在ものに非ず其計の深き事及び難し古人も一日縱レ敵萬世の患と云り今兵を與へ玉ふは虎ゐ翼と添るあり曹操が曰く我能玄德を窺ひ見るに困窮時に野菜を作り醉中に雷を畏れて箸を落す物の用に立人に非ず何ぞ憂る事あらん程昱が曰く閑冷時に野菜を作り雷を畏れて箸を落すい皆彼が計あり豈本心の事あらんや丞相の明よく天下を照す何とく玄德一人に迷され玉ふぞ曹操之を聞て足ずりして申げるい我誤つて此人ゐ出抜れたりとて長嘆して後悔し頻か追蒐て生取來らんと問ゐ一人進み出て申げるい某願くば五百餘騎と卒して玄德と鬪り歸らんと云諸人之と見れば虎賁校尉許褚あり曹操いみしくも申たりと喜びけるば許褚五百餘騎を引て飛が如くに打向ふ關羽張飛後陣に備へけるが後に馬烟りを擧て大勢の來るい必ず追手あらんとて玄德に告知せ陣を取て來るを待に間もなく許褚勢ひに乘て馳來り玄德の左右に關羽張飛が馬を双べて立たるを見て慌してや有けん急と扣へて進まざりしかば玄德問て曰く校尉何とて此に來れる許褚が曰く丞相の命あり將軍早く兵を某に渡して都へ回り玉ふべし玄德の曰く古より大將外に在ていい君の命も受ざる處あり我天子に見えて詔を受又丞相の命を禁りて已に此まで打出たり御邊如何あれば細々しく來りて我に代らんとするぞ程昱郭嘉が徒輩りゐ賂を求めーかとも我更に與へざりし故猥りに丞相に讒言して今御邊を追しむるあらん汝等が如き不義の徒を今すぐに斬て弄んずれども我深く丞相の恩を受たれば忍びざる所あり御邊早々ゑ回りて此事を宜しく云玉へとて馬と早めて去玉へば許褚すべき樣あく空しく回りて曹操ゐ右の趣きを聞る曹操之を聞て程昱郭嘉を責て申げるい汝等密かに玄德に賂を求め彼が與へざりし故に怨と懷いて恐さまに讒を構るい何事ぞ玄德い元より我に背く心あし程昱郭嘉頓首して申げるい丞相之も亦玄德が詐りて云と信じて却りて某等を疑ひ玉ふか曹操笑つて曰く彼已ゐ遠く出たり若再び追ば我と恨んで禍ひをゐん我又汝等を疑いず汝等心を變んせよとて座を起けるが心の内半信半疑にして決せざりしとかや案て蓋飛ゑ一味して密かに曹操を討んと計りし西涼の太守馬騰も玄德の都を出玉ふを見て事急にい成難からんと思ひ煩ふ處に我國へ胡の兼寄ると沙汰ありしかば遂に西涼州へぞ回りける

○關羽襲ふて車冑を斬る

時に建安四年の六月玄德已に徐州より下寄せられければ初め曹操が權に大守として留置る車騎將軍車冑出迎へて城中に請し酒宴と設り て持成酣竺孫乾等來り見えられば玄德舊宅に入て妻子ゐ進其後人を出して袁術が消息を尋ね聞しひ此時袁術い皇帝の位を僭してより淮南より莫大の者をゐし暴逆を專らにして人を恤む事ゐかりしかば相從ふ者次第に背いて雷薄陳蘭といふ二人の大將も嵩山へ落去是より勢ひ衰へて爲べさ樣なかりしゆゑ書間と以て兄の袁紹が方へ帝号を送りゐる其文に曰く

漢の天下を失ふこと久し天子提携にして政事家門に在衰傑角ひ遂て疆宇を分裂せ此周の末年七國の分勢と異ことゐし本に强者之を兼るのみ袁氏命と受て當に王たるべし符瑞炳然今君權に四州を有ち民戶百萬疆を以てそるときい則ち與に大と比るなし德を論ずる時い別ち與に高を比るゐし曹操衰を扶け國を救いんや安ぞ能絶命を續て己滅と救いんや今帝号を納上る請早く皇帝の位に即て共に萬世の洪基を享よ此機會と失ふべからず傳國の璽續で獻上すべし弟術百拜

袁紹元より天下の望みありければ此書を見て限りゐく喜び袁術を河北に召て共に力を併せんとを是ゐ使て袁術淮南を打棄て人馬を收拾し天子御用の物を車に載て已に徐州の境まで出たり玄德此由を聞て五萬の勢を調へて要害ゐ待懸玉ふに袁術が先陣紀靈打破りて通らんとするを張飛大ひに怒り直ちに馬を交へ十合餘り戰ひけるが叫ぶ聲雷の如く紀靈を一鎗に刺殺す袁術先陣の亂れたるを見て自ら兵を駈て進み來る玄德兵を三手に分て自ら中軍を守り關羽張飛と右ゐ備へ朱靈路昭を左に備へ眞先より馬を出して袁術匹夫汝大逆無道ゐして明りより帝号を僭す我今勅命を受し汝を討若速かに降參せば命ばかりを扶くべきぞと大音揚て罵り玉へば袁術怒つて申けるい席を織履と售たる少輩何ぞ我を輕んずるとて兵を下知して討てかゝる玄德の左右に備へたる二手の衆迎へ合せて戰ひ火と散して揉だりしかば袁術が人馬乱れ立て討るゝ者數を知ぞ血い流れて泉の如く屍い積で丘の如し向に袁術と背いて嵩山へ落たる雷薄陳蘭思ひも寄ず其後を攻て兵粮財寶の車を悉く奪い取ければ袁術進退谷りて回るべき路ゐく如何せんと案じ煩ふ兼て袁術が通るを聞て近國より聚りたる强盜溢者ども晝夜も分たず襲ひ刦しけるば戰ふべき力もなくて遁々江亭まで引退さたるに相從ふ勢次第に滅じて老弱にして肥脹れたる者北僅かに千餘人も殘り留りける況んや炎天の暑氣に逢て兵粮い盡たり麥の屑三十斛許り有けるを軍士に分ち施すと雖も餓死をる者麻と亂せるが如くゐり袁術も麥の屑を食んとするに咽塞りて入ざりしかば蜜水を求めて渴と止んと云に庖人答へて只血水い有ども蜜水いゐしといひなれば袁術大ひに叫んで床の上より地に落血を吐事一斗餘りにして了に死けり姪の袁胤其屍を收めて妻子を引具し廬江を指て逃れけるを廣陵の徐璆といふ者こと〳〵く討取て傳國の玉璽を曹操が方へ送りければ曹操之を賞して徐璆を高陵の太守に封じ玄德い袁術が滅びたるを聞て表を上りて朝庭に奏し朱靈路昭と曹操が方へ返らしめ都より來る五萬の勢を徐州に留置て界と守らせ恩德を施して民を憫ゑ玉へば國中こと〳〵く悅服す朱靈路昭二人都ゐ回りて曹操に見えければ曹操五萬の勢を率ひ來らざるを怒りて首を刎んとす荀彧諫めて申るい亟相已に玄德を總大將とし玉ひし故ゐ權柄みゐ玄德一人に歸す朱靈路昭い其手下にありて下知を聞者なり如何とかしいん只密かに書翰を以て車冑に計を授け玄德を欺いて討しめ玉へ曹操此佛寶もとて密かゐ徐州へ使を馳て計事をぞ傳へける車冑書簡と見て陳登を召て密かゐ議するゐ陳登申けるい玄德と殺す事極めて易し城門の兵を伏置玄德を招いて內へ入んとするを一刀ゐ斬玉へ某い矢倉の上より繼く敵と射とるべし車冑大ひゐ喜び兵の手配をして玄德を酒宴に招ぐ陳登い家に回り父陳

珪ょ事の様と語るに陳珪申けるゝ玄德ゝ仁者あり豈殺すゝ忍びんや汝早く行て告知せよ陳登が曰く某も玄德を殺そに忍びす已に計事を定めてひとて直ちに行て關羽張飛ゝ逢企の様を語るに張飛聞も肯ず牙を咬で早城中に打て入んと聞くと關羽押止先て申けるゝ彼已に兵を城門に伏たり輕々しく入ゞ仕損ずべしこの事と只我等に任せよ我一計あり夜深方ゝ曹操が大事ありて軍兵ゞ指向たりと詐り車冑を出抜て城より外へ呼出し引組て生捉にせん先この事を玄德にゝ知せヤすまじ張飛が曰く彼若城外へ出さる時ゝ如何關羽が曰く我期に臨んで計事ありとて幸ひに都より來れる者共の中に曹操が旗幟ありけれゞ此を先に遣みて其夜の三更に壕の邊に到りて門を開けと呼ゝりけれゞ内より何者ぞと問答へて申けるゝ此ゝ都より曹丞相の大事ありて張遼を指向玉へるあり早く門を開いて入玉へ車冑之を聞て急に陳登と召て申けるゝ深更に及んで輕々しく門を開く事ゝ如何ある詐りの計事あらんも知難けれども若眞の張遼が丞相の大事ありて來りたるを入ずんゞ後難又遁れ難かちん我如何とも決する事を得すとて自ら矢倉に上り大音聲て夜中あれゞ實否を辨へ難し夜明る迄ゝ門を開くまじくゝと云けれゞ城外より申々るゝ丞相機密の大事あり夜の明るを待て事洩る時ゝ悔るとも及ぶまし何とて張遼を疑ひ玉ふぞ疾門を開られよ車冑如何せんと案じ煩ひ已に五更の比に到りて緊しく鎧たる精兵千餘騎を相從へ門を排き手に刀を提げて壕に橋かけ張遼ゝ何處ゝ居玉ふぞと云に關羽八十二斤の青龍刀と舞して馬を蹈させ匹夫如何あれゞ玄德を殺さんとそるぞと罵りけれゞ車冑沁得ゞりとて暫し戰ひけるが叶ゝずして引回せゞ陳登内より城門を閉て雨の降如く矢を放つ車冑コハ如何にと驚き城を棄て走りけれゞ關羽急に追蹈兼てゝ生取わせんと巧みしが何とかしたりけん一刀に斬て落し首と取て城下に到り反賊車冑を已ょ誅したるぞ降る者ゝ命を扶けんと呼ゝるに城中の者共こと〳〵く地に拜して降ちんと請關羽よく人民を安んじ車冑が首を提て玄德に見え右の趣きを審かに語る玄德大ひに驚き曹操若自ら攻來らゞ如何せんと怖れ玉へゞ關羽申けるゝ某張飛と共に之を防ぐべし玄德後悔して我若知たらゞ車冑を殺すまじ死者をとて城中に入玉へゞ人民出迎へて上地に再拜ゝ已ょ府堂わ上りて向より張飛が見えぬゝ何くに行たると尋ぬる處ょ張飛遽しく走り來り我已に車冑が妻子を盜く殺し了れりと呼ゝる玄德いよ〳〵驚へて曹操が大勝と此の如く殺して若自ら大軍にて攻來らゞ我何を以てか防ぐ事を得んとて深く張飛が躁しきを戒しめ玉ふ

○曹操兵を分て袁紹を防ぐ

玄德已に徐州の城に入て頻りょ曹操が攻來らん事と恐れ玉へゞ陳登申しけるゝ曹操が常わ畏れ憂ふる者ゝ河北の袁紹あり今袁紹四州を保ちて精兵百萬文官武將雲霞の如し早く書簡を送りて御頼みしゝゝ曹操仮令來るとも何の恐れかしべき玄德の曰く我之を思へども曾て好みをも結

關羽車冑を一刀ゟ斬る

ばず剩へ弟の袁術を我已に滅せり旁々深き怨みあれば今爭でか我を救わん陳登が曰く此處に年老たる官人あり桓帝の御時尚書たりし廉城高密の鄭玄といふ者なり此人袁紹と三代の通家あり若之を頼み玉ひて袁紹に書簡を送らしめば事必ず、あらん玄德此義に從ひ陳登と共に鄭玄が家に行右の趣きを告て再拜して頼玉へば鄭玄欣然として書簡を認ふ玄德急き其書を持せ孫乾を河北よ遣いして救ひを求め好みを結ばしめ玉ふ袁紹對面して鄭玄が書簡と見るに其書に曰く

伏く聞漢道凋零して奸臣强暴外に匡扶の柱石なく內に伏策の梁棟なし賊臣曹操帝を許都に幽へて社稷傾危生靈塗炭惟みるに明公世相府よ居る天下之を仰ぐ事大ひに旱して雲霓を望むが如く久溯以て天日を思ふが如し倘劉玄德力を協せ心を同ふして共に伊尹周公の績を立名を青史お垂て萬代磨せじ區々の志愚くば鄙察せよ

袁紹見了りて申けるい玄德我弟を殺せり我常に仇を報せんとす焉んぞ好みを結ばん孫乾申けるい玄德向よ袁術を拒みたるい是乃ち天子の勅命と傳へて曹操が爲しむる所あり今將軍よ從つて共に力を併せ漢室を匡して曹操を討んと欲す願くば能察し玉へ袁紹が曰く我元より玄德が世の英雄なる事を知る若志を改めて我を恃ばば我必ず救ふべしとて手下の大將を悉く集め大軍を起して都お上り漢を扶けて曹操を滅さんと議するに一人進を出て此事然るべからずといふ諸人之と見れば英雄衆お起見識高明なる鉅鹿の田豐字い元洗といふ者あり諫めて申けるい近年い合戰打續きて百姓皆疲れ倉禀の貯へあくして賦役甚いだ殷あり是國の深き憂ひあり只宜しく朝廷に貢物を捧げ農と務め民を安んじ其後時を待て兵を黎陽に屯し河內お舟を造りて武具を整へ精兵を諸處よ分て邊境を襲ひあば曹操が兵馬き事あくして三年の內に事必ず定ちん時に又一人進み出て曰く此計我意お叶とず諸人之を見れば忠烈慷慨相貌端莊ある魏郡の審配字い正南といふ者あり田豐お向つて申けるい兵書の法十圍五攻敵する時い能戰ふ今主公の神武河北の精兵を率ひて曹操を伐玉いん事掌の內にあり何ぞ徒らお月日を送らん若延引せば後よ悔ども及ぶまじ又一人進み出てイヤ〳〵此計然るべからずといふ諸人之を見れば廣平の沮授あり審配に向て申けるい夫亂を救ひ暴を除く是を義兵といひ衆と恃み强きを倣る之を驕兵といふ義兵い敵に勝驕兵い必ず滅ぶ今曹操漢の天子を許昌に遷し勅命と号して天下と制す其名義兵に似たり況んや妙勝の計事を用て强暴を恃ず法令よく行いれて士卒精煉あり豈公孫瓚が如きの輩あらんや今萬安の計事を棄て無名の師を起さん事我自滅を招ぐの道あり時に郭圖進み出て申けるい御邊の意見相違せり昔武王の紂を伐玉ひしをだも天下之を不義とせず況んや今曹操を伐お何ぞ無名の師と云ん主公四洲の强きを守りて軍士精煉將校奮勇あり若此時に乘て大業を定めずんば後に却つて害あらん是所謂天の與ふると取ざれば反つて其禍ひを受るの理なり是乃ち越の霸たる所以ようして呉の亡る所以あり夫戰ひい時の機を見て變お應ずるを本とす願くば鄭玄が書簡の旨お從ひ玄德を招いで共に力を協せ曹操を滅して上い天意に合ひ下い人情お順ひ玉へとて四人の議論區々分れて袁紹も心未だ決せざる所に忽ち外より許攸荀諶二人來れり袁紹申けるい汝二人多く計事あり今鄭玄書翰を送り兵を起し玄德を救ふて曹操を滅せといふ之お依て議論をるに田豐と沮授とい兵と起す事然るべからずといふ審配と郭圖は早く兵を起せといふ汝二人が心を以て決せべし原來此二人田豐沮授と不和にして郭圖と深く睦しかりしかば郭圖が密かに目加するを見て其意を曉り乃ち答へて申るい古より天の與ふるを取ざれば反つて其殃ひを受るべからずといへり若早く貴上り玉いずんば曹操に寄らるべし先んずれば人と制す必ず延引あるべからず袁紹之お心決し早く都へ攻上るべしとて返翰と書て孫乾を回し審配逢紀を總大將と一田豐荀諶許攸を謀士とし顏良文醜を

先手として騎馬の勢二万歩立の勢八万都合十万の精兵を調へて黎陽を指て進發す此時曹操い都に在て玄德を招ふて軍門を殺し袁紹を頼んで大軍都へ攻上ると沙汰するを聞て大ひに歎き諸大將を集めて如何せんと評商す時ゑ北海の太守孔融將軍に任せられて都ゑ逗留しなるが此由を聞て曹操ゑ見ゐて申けるい袁紹い勢ひ大にして輕々しく敵し難からん如ず交りと結んで和睦を求め玉へ曹操諸人に問て申なるい和睦をせんと戰いんと孰れが御方の利あらん荀彧答へて曰く袁紹い無用の人あり一戰して打破るべし必ず和睦すべからず孔融が曰く御邊の言大ひに錯れり我思ふに袁紹い國廣く民强ふして田豊許攸が輩智謀深く審配逢紀よく兵を用ひ顔良文醜勇あたる者あし其外沮授郭圖高覽張郃淳于瓊等是世に希ある名士あり何故輕んじ玉ふを荀彧笑つて申けるい足下只其一を知て其二を知ず袁紹兵衆しと雖も法整いず田豊い剛にして上を犯し許攸い貪りて飽ず審配い專らにして計あく逢紀い果にして用あし之等ハ人い互ひゐ爭ひ妬んで必ず內變を仕出すべし顔良文醜い匹夫の勇なり只一戰して生取にせん其外碌々ハ小輩假令何百万ありとも豈道ゑ足んや我此故に袁紹を無用ハ人とゆありといひけれバ孔融言るくて閉口す曹操大ひに笑つてゆけるゑ何事も荀彧が智慮ゑ渡る事あし早く用意とせよとて前後兩營の官軍を起し先劉岱王忠二人ゑ五万の勢と授け態と丞相の旗を指せて徐州ゑ向つて玄德を攻させ自ら二十万の勢と卒して黎陽ゑ出て袁紹を防がんとす程昱諫めてゆけるい劉岱王忠い玄德が對手に不足なり別に然るべき大將を擇み玉へ曹操申けるい我已に之を知れり此故ゑ態と我丞相れ旗を指せて自ら向ふたる体を見せしむ然る時い玄德我を畏れて輕々しく戰いじ方も陣を押へて急ゑ進まざらしむ此間ゑ我先袁紹を破りて勝に乘て直ちに徐州へ押寄玄德が外の援を絶て容易く生捉んなりとて黎陽に出て陣屋を搆へ袁紹と八十里を隔て互ひゑ要害を緊く守り出て戰ふ事もなく八月より十月まで徒らゑこそ暮しける其故をいかゑと尋れい逢紀勞るとありて審配壹人大將たりしがば沮授かれて審配を恨む故あるによりて審配が計策を用ず遂に不和にありけるゆゑ袁紹心疑がひ惑て進んで戰かふとを思はず一度も出るとあかりしかバ曹操之をきひてされバこそ內變を生じけり袁紹さだめて墓々しく攻來るとは有まじ我自ら爰にありて益ゑしとて臧霸を止めて青州徐州の界を守らせ于禁李典を河上に止め曹仁を惣大將として官渡の難處ゑ陣ととらせ自から一軍を引て都へぞ回り上りける

○關羽張飛劉岱王忠を擒にす

劉岱王忠二人と五万餘騎にて徐州を百里隔てゝ陣ととり中軍に丞相の大旗を打立て曹操自ら向ふたると披露し肯て輕々しくハ進まず堅く守りて日を送り居たるにいかゞ思ひけん曹操使を馳て速かに攻蒐るべしと催促す劉岱これと聞て王忠ゑ向つて申けるい丞相早く戰かひを催ふし玉ふ御邊押寄一軍して敵の虛實とこゝろみ玉へ王忠申しけるハ都を出るとき丞相苦ろに御邊をめして計事と授け玉へり今何とて我に讓玉ふぞ劉岱が曰く我い是此陣の大將軍なり豈輕々しく敵にひゐいんや王忠が曰くさあ云玉ひそ我と御邊と官爵に高下あし何んぞ御邊の下ゑ屬ん所詮一度ゑ打向いん曹操が使これを見て申けるハ二人爭ひをあーてい如何んぞ玄德ゑ敵するとを得ん兵を二手に分て闘をとりて打向ひ玉へ二人この義に隨ひ闘をとりたるに王忠先の字ゑ當りけれバ兵と進めて徐州の城に攻蒐る玄德敵の寄るをみて陳登と計事と議し玉ふに陳登申けるい袁紹十萬の兵と起して黎陽まで出たれども手下の謀士不和にして戰かいずして日を送る然れども某よく曹操を計るに詐りの計略きいめて多きものゐれバ必らず袁紹を畏れて自から黎陽に向つて自から妨がん今此所に丞相の旗あるい詐りて自から向たる体をゝせ敵を畏れしむるの企あらん玄德の曰くいかゞして虛實をしらん張飛進み出て申けるい某行て見來るべし玄德の曰く我你が性の躁

しふして事を仕損せんを憂とす張飛が曰く若曹操に出あはば引掴んで持來らん玄德の曰く曹操は漢の逆賊あれども天子の勅命と號するゆよりて名正しく言順がふ吾いま敵對するときは必らず逆臣と呼るべし張飛が曰く若さやうの御憂あて候い〻唯手を束て彼が來るを待玉へ玄德の曰く今袁紹我と救ふと雖も其虛實しり難し若曹操に賂まれて大軍この所へ攻來らば我死するに門あからん張飛が曰く他人の勢を稱揚して味方の氣をへらし玉ふあ玄德の曰く彼と知り己と知るときい百たび戰つて百たび勝己をしりて彼を知ざれば一たび勝て一たび負己を知ず彼を知ざるときは百たび戰ふかて百たび敗るこれ萬古不易の理あり我城中兵粮の用意もあく特に手下の軍兵い都より曹操ゆ預り來る勢どもあり假令戰かうたりとも何を以て勝とを得んたゝすゆ一も闘とするは袁紹が救ひあり關羽申けるい然とども坐がら滅亡を待べきにあらず某罷ひかつて虛實を見來らんとて三千余騎を率して城外ゆ出ければ王忠も兵を進めて攻近く時十月の半にて陰雲四方に掩ひ大雪降積りて塞氣堪がたきに關羽刀を引さげて馬と眞先に出せば王忠大音あげて申けるは曹丞相こゝにあり匹夫何ぞ早く降ざる關羽申けるい曹操あらバ馬を出せ我對面して一言を言ん王忠が曰く曹丞相あんぞ輕々しく你が如きものに對面し玉いん關羽大いに怒り馬を飛して討て蒐りけれバ王忠も鎗をひねりて二三合戰かふに關羽詐はりて逃走るきたあし回せとて山際ゆ趕て來りけれバ關羽きうに取て回して號ひてかけるに王忠驚き怖れて走りけるを關羽刀と左手に持右の臂をさしのべて王忠が鎧の上帶を掴んて中に引さげ脇に夾んで歸りけれバ其勢ふるひ怕れて散々に走りけるを關羽が三千余騎勢ひに乘て追蒐馬を奪と數百走あり關羽いそぎ王忠を縛りて玄德の前に出けれバ玄德問て曰く你何者あれバ詐いりて曹丞相と申たるぞ王忠答て曰く我なんぞ詐いらん丞相我ゆ命じて旗バかりを立て疑兵の計事を成しひ丞相もし袁紹を破り玉い〻不日に來て你等を生取玉ふへし玄德乃ち衣服と與へ酒を飲せて止えおき又劉袋を生取んと儀し玉ふゆ關羽申るい我先に兄の曹操ゆ和睦を求るの御心あるを計りて王忠を生取來れりさあくんバとく斬て棄ん玄德の曰く我實ゆ此心あり張飛が性さいがしふして必らず王忠を殺さんとを患彼が行んといふを止めたり是等の者どもを假令殺したりとも益あるまじ若生て置ときい曹操が怒を休るとわらん張飛進ゑ出て申けるい某ゆきて劉岱をひきずり來らん玄德の曰く劉岱い昔し兗州の刺史たりしとき虎牛關ゆて董卓と戰かひし者あり輕んずる敵にあらず張飛が曰く是程の奴原何ぞ言ゆ足ん我即時に掴んで持來るべし玄德の曰く我いたゝ你がもの躁しふして彼を殺さんとを患ふ張飛大に腹を立何とて前より我と輕んじて躁がし〳〵といひ玉ふぞ若彼を殺さバ我必らず其命を償あふべしと言ちらして三千余騎を卒して打出たり此とき劉岱い王忠が生捉れたるに驚ひて堅く陣門と守りて居たり

張飛劉岱を生捕

しに張飛直ちゝ押よせ勢ひに乗て破んとせ劉岱いよ〳〵張飛と怕て數日のあひだ出さりければ張飛元來性躁がしふして少しも怯ぬ大將あれば敵の出ざるゝ退屈してさま〳〵に惡口してありけるが心の内につと計と案じ出し今夜の二更に敵陣を夜討にすべし其用意とせよと手勢のものに相觸畫のあひだい頻りゝ酒を飲で詐いりて大に醉たる体とあし咎もなき士卒をさん〳〵ゝ打擲して陣中に縛りおき後ゝ首を斬て旗と祭りて軍の首途に具へんと罵りて密かに其友に命じて繩をとき免さしむ士卒過あふして痛く責られ心に恨を含んで劉岱に降參し事の樣をありのまゝに告げれば劉岱初めの程は詐はりならんと信せざりしが其士卒全体を打れて血に染たると見て扨は張飛が例の躁暴より出たり今夜寄來らば引つゝんて討とれと兵をゝ陣外に伏おき鳴をしづめて待居たり張飛は士卒の走りさるをみて計成就せりと悅び兵を三手に分一手いたゝ三十余人二更のころ夜討に向ふと號して敵陣に攻寄らせ二手の勢敵陣の後へまはして盛に乘て責入べしと約をあゝ程ゝ夜も二更の頃に至りゝれば張飛自から劉岱が陣の後にまとり三十余人の者ども喊をつくりて押寄火をかけて攻入けるに伏勢とく〳〵く起り引包んで内外ゝり討んとする所に思もよらず陣の後より張飛が二手の勢喚き叫んで込入矢を放りと雨のごしと劉岱衆ゝ相違して散々に乱れ我先にと落行とこゝに山の際より張飛一軍を引て遮りとゞめ馬を交へてたゝ一合に劉岱を引掴んで地ゝ抛生取て回ければ降もの數をしらず玄德此由と聞て限あく喜び關羽に向つて申されけるゝ張飛い元來ものさいがしき男なるか今智謀を用ひたり我何をか患んやとて自から城を出て迎へ玉いば張飛之を見て大書あげて申けるい兄我とものさはがしけといひ玉ひしが今日いかん玄德笑て曰く我適に言を以て你を勵さずんば今日何ぞ此の如くある事と得ん張飛も限りあく打笑ひ士卒を下知して劉岱を引出させげれば玄德馬より飛下自から繩を解て申されけるい我弟誤まりて無禮をあせり願くば許し玉へとて伴なふて城中に入前に生取てとへら置たる王忠を召出して一同に持成て申されけるは事實さきゝ我と殺さんとせしゝ因て止とを得ずして誅戮せり此故に亟相疑がひをあし二人をさして此所ゝひのいしひ我亟相の大恩を蒙りて常に命を捨て報せんとを思爲んぞ朝廷に背ひて亟相ゝ敵せんや御邊願くば我等が罪なけよしを宜しく亟相に告玉へ劉岱王忠拜謝して曰く某二人已に擒にせらる若一命を助け玉ふ時い是將軍の洪恩あり亟相の御前い某二人にまかせ置王へ二心おいせぬよしを明ゝ申べし玄德大に悅び次の日生取ととゝく免し回し玉ふ劉岱王忠已に城を離れ十里ばかり出ける所に忽然として戰のこゑ地と動し一手の勢路を遮る二人驚て之をまれば張飛あり眼をいからして申けるい我兄い何とて此の如くに分別のあきぞ適々生取たる逆賊をかやうゝ免すとやあるとて丈八の矛を鮮しとつと號ひて蒐りければ劉岱王忠馬上にて震ゝく所に一人後より馬をとばし出來り無禮をするなと呼いりければ誰やらんと見るに關羽ありしかば劉岱王忠少し心と安んじて相待に關羽つと來りて申けるい兄已に二人の者を放して歸ゝめ玉ふ軍故道と遮り止めんとする張飛が曰く今若放さば重て又來るべし關羽が曰くもし重て來らば其時に誅をべゝ劉岱王忠申けるい某すでに活命の恩を蒙る丞相もし某が三族を滅ぼすとも敢て再び來まじ願くばこゝと放し玉へ張飛申けるい假令曹操が自から來るとも一人も生ていい返さじ今權ゝ二つの首と你二人に預け置重て來るときに請取ん劉岱王忠肝を涼し頭をかゝへて去ければ關羽張飛も城中に回る玄德申されけるは曹操必らず自から攻來らんいかゝして防ぐべき孫乾が曰く徐州い敵を受て久しく保ち難き城也如玄兵と小沛ゝ屯ろし下邳の城を守りて掎角れ勢ひをあし玉へ玄德この議然るべしとて關羽ゝ妻子一族を託て下邳城に籠ふき孫乾簡雍糜竺糜芳を徐州の城ゝ止め自から張飛を引具して小

沛の城を守り玉ふ

○禰衡赤裸にて曹操を罵る

去程に劉岱王忠許都にのぼり曹操に見えて玄德の野心あきよしを申げ候ば曹操大ひに怒り己等はるゝ〳〵と討手に對つて歟と平らぐると能いず却つて我國を辱かしむ速やかに斬て棄べしと罵りけるを孔融諫めて申けるい劉岱王忠い玄德が對手よあらず此故に打負て回りたり然るを怒つて殺し玉いゝ諸人心を安んぜず丞相を明かあらずと沙汰すべし曹操げにもとて二人の死罪を宥して官爵を剝とる其後自ら大軍を起して徐州を攻んと議しなるを孔融又申けるい時今冬の末よ至つて寒氣に堪がたし安に兵を動す可らず來春を待て發行し玉へ荊州の劉表と襄城の張繡と力を合せて朝廷に背く使を遣はし誼を厚くして招き玉はゝ必らず來りて服すべし此二人丞相に降らゞ天下響きのとくに應すべし曹操此義我意に叶へりとて即時に人を仕立て荊州襄城へ下らーむ襄城へは劉曄使として下りけるが先賈詡にあふて曹丞相の仁德漢の高祖の風わりといひけれゞ賈詡大に悦び劉曄を私の宅に止めおき次の日張繡よ見えて偏へよ曹操の德を稱し今劉曄を使として招かしむ疾く降り玉へといふ處に河北より使ありとて書簡を奉る乃ち披きみれば袁紹が張繡を招く書あり賈詡其使に對面して問て曰く袁紹近頃兵と起して曹操を攻玉ふと聞しがいかゝ勝負を決したるゞ使申けるは時今寒氣の堪がたきに至れり此故に暫く戰ひを止て來春をまつ荊州の劉表と襄城の張繡とは國士の風あるを以て使をさして招かしむ賈詡笑て申けるい汝早く國に回りて袁紹に申せ御邊が骨肉の弟さへ疑がひ拒んで容こと能いず何んぞ天下の國士を招いて用ゆることを得ん我何ぞ腰を屈めて你が下に立ん早々に回れとて書簡を引破りて逐立けれゞ張繡申けるい今袁紹い勢はひ盛にして曹操い弱し何故に使を逐立たるゞ若袁紹怒りて攻來らゞ我何と以てか妨ぐことと得ん賈詡申けるい某が意は曹操に降らんと思ふ故あり張繡が曰く我曹操と深き讐あり今若降らゞ害せらるべし賈詡が曰もし曹操に降るときい其便三あり曹操は天子の勅命を受て天下を征す其宜き一なり袁紹は強と雖も將軍い降り玉いゝ必ず甚だ輕んずべし曹操は弱しと雖も將軍を重く用ひん其宜き二あり曹操い五霸の志しあり必らず私の怨をすてん其宜き三あり少しも疑がふ事あふして早く曹操に降り玉へ張繡尤と同しけれゞ賈詡乃ち劉曄を伴あひ來る劉曄對面して曹操が平生の德を稱し若舊き讐を思いゝ何ぞ今某を使として招くことをせんといひけれゞ張繡喜こび此上は何の疑がふとあらんとて酒宴を設けて重く持成し次の日都に止りて降參を請曹操自から出むかへ張繡が手をとりて申けるは御邊已に我に降る舊き讐ありとも何ぞ心よ掛んとて揚武將軍に任じ賈詡を執金吾として酒宴をあして悦びを述ときに荊州より使回り劉表を招くども心に疑がひと懷いて從がはずといひけれゞ張繡申けるは我襄城にありて久しく劉表と交を結ぶ若辨舌の人あ我書簡を持せて遣はし利害と說て諭さし來ゞ乍ちあ來り降らん孔融申けるは某が家に平原の禰衡字い正平といふ者あり才學極めて高しと雖も生質ものに忍ぶと能いず言を出せゞ人を必ず譏る此人昔より劉表と交はると深し丞相用ひて使とし玉へ曹操召出して對面しけるあ未だ坐を賜はざりしかゞ禰衡はや心に怒をはつし天を仰いて長嘆して曰く天地の間濶と雖も何とて人はなきぞ曹操が曰く我手下に名士數十人あり當世の英雄なり你何とて人あしといふぞ禰衡が曰願くは其才の詳ぴらかあるをきかん曹操が曰く荀彧荀攸あ智深く謀多き者なり古の蕭何陳平も及ふまじ張遼許褚李典樂進は其勇あたる者あし古の岑彭馬武も及べからず呂虔滿寵從事より于禁徐晃先鋒たり夏侯惇は天下の奇才曹子孝は世間の福將你あんぞ人あしといへる禰衡わざ笑て申けるい御邊の言相違せり是等の人々我明かに知り荀彧は人の疾を問せ喪を弔はしむべし荀攸よは墓を守らしむべし程昱には門を守らし

むべし郭嘉には文と書せ詩を作らしむべし張遼には皷を打せ金を鳴さしむべし許褚い牛馬を牧しむべし樂進は狀を讀しむべし李典は書簡を持せて使たらしむべし呂虔は刀を磨せ劔と鍛しむべし滿寵は酒を飲せ糟を食はしむべし徐晃は猪を屠り狗を殺さーむべし于禁は背に板を負せて墻を築しむべし夏侯惇い肥ふくれたる將軍と劉し曹子孝と錢はしがる大守と呼く其外の者共は衣を着る故わ衣桁の如く飲を食ふ故に飲甕の如く酒を飲ゆゑに酒桶の如く肉を食ふ故に肉袋の如し手足を動かし言を出すと雖も何の益かあらん曹操之を聞て心中よ大に怒り你い如何あ る能かあるぞと問ければ禰衡申ける い我は天文地理の書一としして通せすといふとあく九流三教の事曉らぞといふとなし上は以て君を堯舜にいたすべし下は以て德を孔顏に配べし胸中には國を治め民を安んぞるの方を懷も豈俗子と共に論せんや張遼之を聞て以ての外に怒り匹夫いかあれば無禮の言を出せるぞとて劔と拔て之と斬んとするを曹操押止て曰く今朝堂に皷と打役人を欠近日朝賀の酒宴あれば禰衡を用ひて皷を打しめん禰衡わへて辭せず領掌して去りれば孔融も心の中恐れ入て退ぞきけり張遼申けるは丞相何とて禰衡を斬てすて玉はざる曹操が曰く此人素より世上に虛名高くして遠近よ知ざる者あし今之を殺さば人みあ我を議論せん彼自ら才能よ誇る我今皷を打せて恥辱をあたふるあり時に建安四年八月朔日の朝賀に曹操省臺わ出て酒宴をあし百官と〳〵く集まり賓客坐に連なる皷の役人來りければ禰衡も其中ふありけるが自から堂わ上りて皷を打漁陽の三撾を奏しけるに音節よの常に替りてとに妙に聞えければ滿座慷慨せざるはあし稍ありて左右の諸大將みあ叱て朝堂の御賀には皷の役人古へより新しき衣と着と你何とてさやうに汚れたる衣を着ぞといひければ禰衡少しも躁かずしづ〳〵と帶をとき破れ汚れたる衣を坐上よ脫で赤裸になり全身を露して立しかば滿坐の人々眞を醒して顏をかほふ禰衡もる〳〵

と噴鼻揮を着て少しも顏色を變せず又三通打ければ曹操叱りて申けるは朝堂の內にて何とて無禮を仕るぞ禰衡が曰君を欺むき上をあみする無禮に比すれい我今父母より得たる全身をあらいす是則いち正しく潔きよき人なり曹操が曰く你自ら潔よしといふ濁りたる人い何くにある禰衡が曰く你賢愚を分つと能わず之眼濁るあり詩書を讀す之口濁るあり忠言ときかず之耳濁あり古今に通せず之身濁あり諸侯を容ると能わず之腹濁なり常に反逆の企をあす之心濁あり我い天下の名士あるに你以て蚊の役人とそ之賣貨が孔子を害せんとし緑倉か孟子を殺れるよ似たり你霸王の業と必に讀て何とてかやうに人を輕んずるぞ是讀に匹夫れ所行ありと罵りければ曹大將斬てすてんと怒と喜操制して申けるは我此者を殺さんい鼠を殺すに同じとて禰衡に向つて申けるは你もし荆州に使し劉表に說て降しめば我必故をもつて公卿とせん禰衡わへて詐容せざりしかば曹操馬を引せて從者二人に扶け乘させ

禰衡赤裸ふありて曹操を罵しる

て手下の諸將みな酒肴を用意して東門の外まで送るべしと下知しければ文武の諸將さき立て東門へ出るが皆心中に怒を含む荀彧申けるゝ禰衡愛に來るとも我等起て迎るとあるべからずとて待所に暫らくまと經て禰衡來れり諸人平坐して起て迎る者なかりけるゝ禰衡聲を放つて大いに笑く荀彧問て申けるゝ汝今首途を祝ふときに何事を笑くぞ禰衡が曰く汝等一人も立て能はゞ死人に問ヒ我死人の中を行この故に笑くなり諸將ゝなを申々るは汝我等を死人といふ汝い昔なき狂鬼なり禰衡か曰く我は則はち漢朝の臣なり曹操が反逆の奥意にあらず何んぞ首なかるべき諸將いよ〳〵腹を立漸て禁んといひけるゝ荀彧制して申けるは向に丞相彼と殺すゝ鼠を殺すが如しと云玉へり我等刀を汚し何にかせん禰衡が曰く汝等我を鼠とするか鼠には猫人の性あり汝等ゝ實の業むしなり諸將皆大ひに怒り同苦もなく相伴ふて去ければ禰衡遂に荆州に至り劉表に見えて其德と稱ゝと雖とも實い誹れる首なれゝ劉表悅びず江夏の城へ遣して黄祖ゝ見えしむ或人問て申けるゝ禰衡頭に君を謗る何故に殺ずして江夏へ遣はし玉へるぞ劉表が曰く禰衡既ゝ曹操を罵しり辱しむ然ども曹操忍んで殺ざるゝ天下の心と収んた先あり此故に荆州ゝ使せしめ我手を借て之を殺し劉表其賢人と殺せりとて不義の名を取しえんと計る我之を知ゆゑに黄祖が所へ遣して曹操に我智惠のほどを知しめんとす諸人をゝ感嘆して其明かあるを稱する所に袁紹より使來れり共ゝ力を合せて長く好を結ゞんと云けれゝ使と旅館ゝ宿し文武の大將を集めて申けるは曹操禰衡と以て我と招き袁紹も使を馳て好を結ゞんとす我何れゝ從がはん從事中郎將韓嵩申けるは今曹操と袁紹と天下を爭そふ重きと將軍の御身にあり嵩天下の御望あらば是時に乘て早く事を起一玉へ又天下の御望なくんゝ宜しき方へ從がひ玉へ今曹操よく兵を用て名譽の士競ふて服す其勢ひ必らず先袁紹を破らん袁紹を破りて後に兵を東國へ遣さゝ恐らくは將軍妨ざ玉ふと能と只荆州を持ながら曹操ゝ從ひ玉はゝ必らず重く用ゆべし是萬全の計にて候はん劉表猶疑がふて更に決せず稍ありて曰く你先都に上り其虛實を伺ひ來れ其後ゝ事を決すべし韓嵩申けるゝ夫聖人い節ゝ連す其次ゝ節を守る某い節を守る者あり君臣は各々定まれる分あり死を以て節を守る之命ずる所あり火を蹈湯ゝ入といふとも辭せるとあし將軍もし上天子に從がひ下仕曹操ゝ從がひ玉はゝ臣が心も安からん若御心に疑がひを懷て某を都ゝのぼせ玉ひて天子萬一某ゝ官爵を玉いらば某は漢の臣とありて將軍い故主とあらん然るときい君に在てい君の爲にすといへる古の言ゝまかせゞ天子の命を受ては其本義將軍の御爲を思ふと能と願くゝよく思案を運し玉へ劉表さかゝ我別に高論あり你早く都に上れといひけれゝ韓嵩やひとと得ずして都ゝ上り朝に出て貢物を捧げれゝ曹操對面して則ち詔詞と申下して侍中零陵の大守に封じて又荆州ゝ回らしひ荀彧これを聞て諫めて申るゝ

韓嵩が來りしい都の虛實を窺いんためあり今何の功もあきゝ高官を授々玉ひ其うへ禰衡が書信もあきゝ荆州へ回らしめ玉ふ是如何ある故ぞ曹操笑て申けるゝ禰衡あまりに我を辱しひ此故ゝ荆州へ使せし先劉表が手を借て殺さんとす何ぞ再び問とをせんといひけれゝ諸人みゝ其高論に服す韓嵩は荆州にかへり劉表ゝ見えて都の盛んなるゝしと歎り御子一人朝廷ゝ仕官させて人質とし玉へ然ときい曹操も疑がふとゝふーて此國自から長久ゝらんといひけるゝ劉表大に怒り你二心あり斬て棄んといふに韓嵩呼んで申けるは將軍こそ初めより某が諫をきゝ玉ゝず某さらに將軍ゝ背くとゝし蒯良これを聞て劉表を諫め韓嵩赦ゞ都に上らざるとき已に再三此事をいへり今更二心にていい候とゝといひけれゝ劉表靜ゝ死罪一等を免して獄中に捕へ置けり時に江夏より人來り禰衡すでに黄祖ゝ殺されたりと告けれゝ劉表駭ひて其仔細を問に答へて申けるは黄祖あるとき禰衡と酒を飲共に醉へゝ醉けるが黄祖問て

申けるゝ御邊都よりて雖人を英雄とし玉ふぞ禰衡答て申けるゝ大兒孔文擧小兒揚德祖この二人の外ゐ人と思ものいるし黄祖が曰く我等が如き者はいかん禰衡が曰く御邊と社の中の神に似り人の祭を受ると雖も何の靈驗もゐし黄祖大に怒り你我を以て土人形とするかといふて引出して斬せけるに禰衡死するまで罵りて止ざりしと語りけれゞ劉表悲しんで遂に屍と鸚鵡州に葬ひらしひ是ゐよりて了に曹操に從はざりしかゞ曹操都ゐありて禰衡が殺さきたるをきゝ大ひに笑つて申けるゝされゞころ廣り儒者の癖として己が舌ゐ劒ゐり口故に自から死たり器をども劉表わが使を殺したれゞ此德にてゝ捨置がたし早く大軍を起して荆州を攻破んと議するを荀彧諫めて申けるゝ袁紹未だ平服せず玄德ゐを徐州にゐり若是を捨ゝ東國に向ひ玉はゝ必腹の病を後ゐして手足の瘡を先ゐをるが如しまづ袁紹を平げて次に玄德を除き其後に江漢を伐玉いゝ一鼓して定まらんと云りる故曹操實もとて止まりける

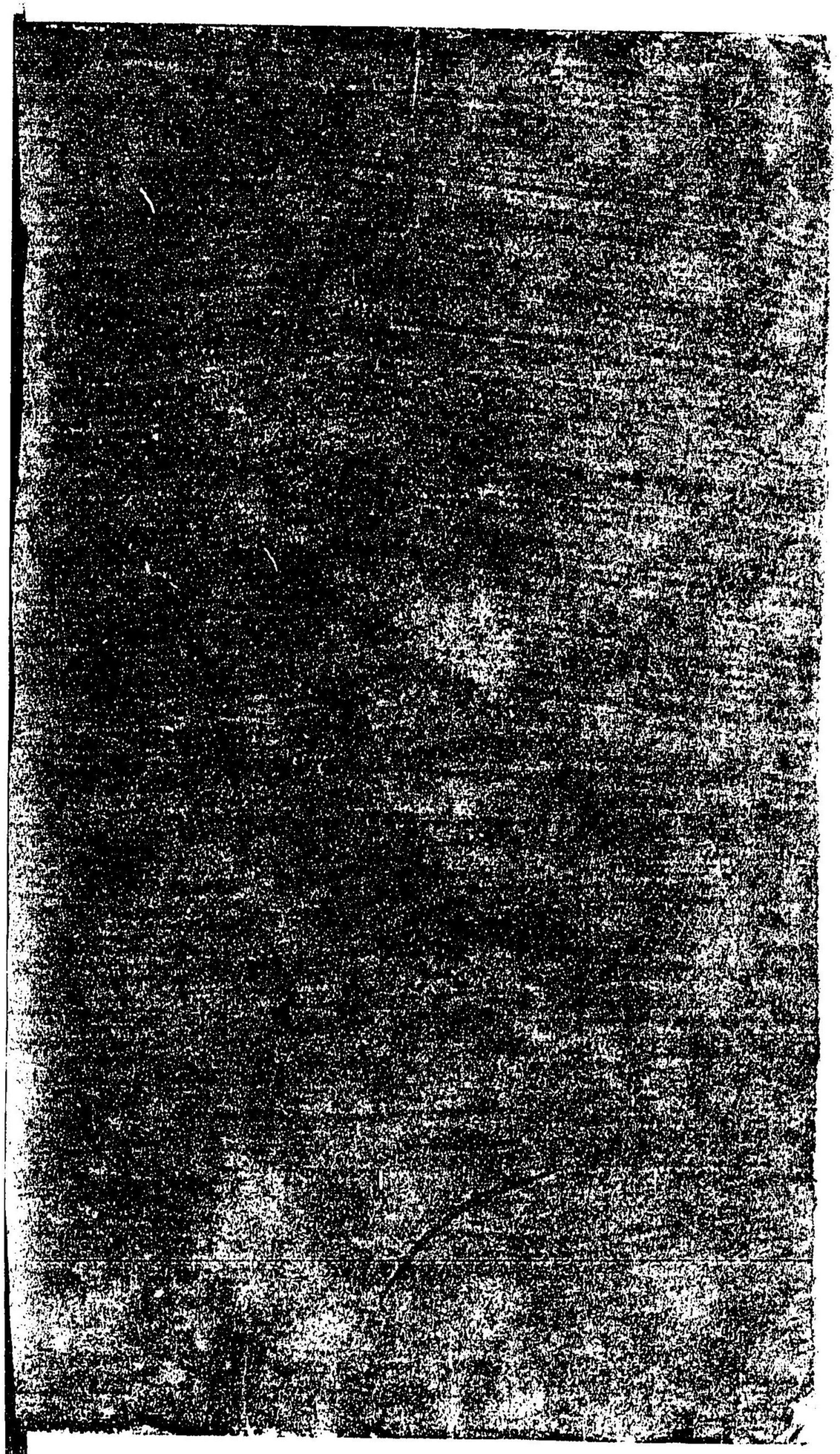
通俗三國志卷の九終

咸唐題庫　毎月四回發兌　定價一冊四錢

明治十六年七月七日　出版御届　定價金二十五錢

出版人　東京府平民　清水市次郎　芝愛宕下町四丁目一番地

大賣捌　漸進堂書屋　法木德兵衛　於大坂町十一番地



新刻通俗三國志

卷三

特40
21